

教 育 研 究 業 績 書

平成29年 6月12日

氏 名 熊 谷 孝 三

教育上の能力に関する事項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例		
(1) チュートリアル（放1年） 大学における学習法を指導した。	2007年4月～現在	これまで受動的な勉強法を主体とした学生に対し、大学での勉強の仕方および考え方を学ばせた。1) 問題提起の方法、2) 問題への対処法（調査法含む）、3) 整理およびまとめ方、4) 発表方法および 5) 質問方法などが可能となるように課題を与え、検討させると同時に論文としてまとめさせた。また、最終日には、個々の学生に対して検討内容をスライドで発表させ評価した。
(2) 放射線科学演習Ⅰ（放1年）	2007年4月～現在	診療放射線技師業務の概要、現状、診療放射線技師の役割およびそれらと本学科にて受講する科目との関連および重要性について教授し、勉強の必要性および医療人としての心構えの啓蒙を行った。また、1年生に対し診療放射線技師の役割の重要性、そのための知識の必要性を知らしめることにより勉学への意欲向上が可能となる指導を行った。
(3) 放射線科学演習Ⅱ（放4年）	2007年4月～現在	診療放射線技師国家試験の合格をめざし、放射線治療、放射線測定、放射線機器管理などの講義と模擬試験を実施し、基礎知識の修得に努めた。
(4) 放射線治療技術科学（放3年）	2007年4月～現在	スライドで臨床に則した基礎かつ最新情報の講義を行った。資料を配布し、スライドで要点を教授するとともに、小試験を課して習得状況の確認を行った。また、臨床現場に状況を示し、誠実な人間性と習得すべき教育の重要性を教授した。
(5) 放射線計測学実験（放3年）	2007年4月～現在	診療現場で重要な放射線被ばくに関する計測実験を理解するように、資料を配布し、スライドで要点を教授するとともに実習を教授した。
(6) 放射線計測学（放3年）	2007年4月～2011年3月	スライドで臨床に則した放射線計測の基礎かつ最新情報の講義を行った。資料を配布し、スライドで要点を教授するとともに、小試験を課して習得状況の確認を行った。
(7) 放射線保健管理学（旧 放射線画像安全科学（保健衛生を含む））（放2年）	2007年4月～現在	スライドで、放射線の作用、人体への影響、放射線被ばく防止、ICRP 勧告など放射線保健学の基礎かつ最新情報の講義を行った。資料を配布し、スライドで要点を教授するとともに、小試験を課して習得状況の確認を行った。また、臨床現場に状況を示し、誠実な人間性と習得すべき教育の重要性を教授した。この講義に関する書籍を出版した。

(8) リスクマネジメント（放3年）	2007年4月～現在	病院では医療事故防止は不可欠である。そのため、医療事故防止のあり方、事例などを示唆し、演習を通し、また、資料を配布し、スライドで要点を教授するとともに、レポートを課して習得状況の確認を行い、医療事故を防止する仕組みを教授した。他の大学には見られず、臨床病院で非常に役立つ講義である。
(9) 放射線機器安全管理学（放4年）	2007年4月～現在	放射線診療機器は、薬事法、医療法、電離規則、障害防止法などで記されており、安全な運用が示唆されている。そこで、資料を配布し、スライドで要点を示すとともに、小試験を課して習得状況の確認を行った。また、放射線機器の品質保証・品質管理や安全管理について教授した。
(10) 放射線治療技術学特論（大学院前期課程1年）	2007年4月～現在	大学院教育において、放射線治療について教科書による講義とスライドを使用して応用能力を養成できるように学ぶべきことを教授した。また、英語文献を読解させ、臨床現場での英語抄録への対応が可能なように指導した。
(11) 放射線計測学工学特論（大学院前期課程1年）	2007年4月～現在	学院教育において、放射線計測学について英語文献を読解させ、教科書による講義と、スライドを使用して学ぶべきことを教授した。
(12) 臨床実習Ⅰ（放3年）	2007年4月～現在	大学内で行う臨床実習に対応するため、専門教育（放射線治療技術、上部消化管検査）について実習指導するとともに、医療人としての心得や将来展望を考えさせる教育を行った。
(13) 臨床実習Ⅱ（放4年）	2007年4月～現在	広島大学病院で行う臨床実習について指導するとともに、医療人としての心得、診療放射線技師に必要な専門教育についてカンファランスを通して教授した。
(14) 卒業研究指導（放4年）	2007年4月～現在	所属研究室の学生に対し、放射線治療に関する研究について教授、指導し、卒業論文の指導にあたった。
(15) オフィスアワーの設定（全学年）	2007年4月～現在	講義時間以外に学生の質問や相談をうけるためオフィスアワーを設定し、学生の指導にあたった。講義の内容のみでなく、診療放射線技師に関する業務内容、就職および国家試験全般など診療放射線技師免許所持者としての経験などについての相談なども行った。
(16) 放射線科学（三次看護専門学校3年）	2007年4月～2009年3月	スライドで、放射線作用、人体への影響、X線検査、核医学検査、放射線治療、MRI検査、放射線防護など診療放射線学に関する講義を行った。
(17) 放射線治療学（九州大学3年）	2007年4月～2013年3月	スライドで臨床に則した基礎かつ最新情報の講義を行った。また、臨床現場に状況を示し、誠実な人間性と習得すべき教育の重要性を教授した。
(18) 専門職連携教育Ⅰ、Ⅱ	2013年4月～現在	演習によりチーム医療の重要性を教授した。
(19) 接遇論	2014年4月～現在	医療人として必要な接遇、倫理、コミュニケーション力、診療放射線技師法、診療放射線技師の役割と責任等について教授した。

(20) 放射線治療機器学	2017 年 4 月～現在	放射線治療機器学および薬機法について教授した。
2 作成した教科書、教材		
(1) 臨床実習 I	2007 年 4 月～現在	実験を効果的かつ講義との関係が明確に理解できるように実験書を作成した。上部消化管撮影法、放射線治療における線量測定法について、わかりやすく理解できるよう努めた。
(2) 放射線計測学	2007 年 4 月～2011 年 3 月	放射線を測定するため、放射線計測法、放射線測定器の原理と特徴などを教授する上で分かりやすく理解できるように講義資料を作成した。
(3) 放射線計測学実験	2007 年 4 月～現在	診療放射線における放射線被ばく線量の測定を効果的かつ講義との関係が明確に理解できるように実験書を作成し、わかりやすく理解できるよう努めた。
(4) 高エネルギー電子線の吸収線量測定マニュアル	2007 年 4 月	臨床現場における電子線の吸収線量が極めて複雑なために、簡単かつ高精度な線量測定法を確立した書である。単著者である（医用工学特論の講義用）。
(5) 放射線治療技術学	2006 年 10 月	放射線治療の基礎から臨床までを体系化し、重要事項について解説を加え、理解が深まるように出版した（放射線治療技術学の講義用）。
(4) 放射線機器品質管理実践マニュアル 外部放射線治療装置	2008 年 2 月	放射線治療装置に係る安全確保のための品質管理のテキストを出版した（放射線機器安全管理学の講義用）。
(5) 放射線保健管理学	2007 年 4 月～現在	放射線の性質や特徴、人体に及ぼす健康影響、身の回りの放射線などを教授する上で分かりやすく理解できるように講義資料を作成した。
(6) 放射線被ばくを知っていますかー放射線被ばくの危機管理ー	2012 年 4 月	放射線、放射線防護、放射線被ばく、ICRP 勧告など診療放射線技師として必要な専門知識の修得が図れるように出版した。
(6) 放射線機器安全管理学	2007 年 4 月～現在	診療放射線機器を安全に管理するため必要な内容を分かりやすく理解できるように講義資料を作成した。
(7) リスクマネジメント	2007 年 4 月～2016 年 4 月	医療分野において必要な事故防止、造影剤のリスク、感染防止などについて内容を分かりやすく理解できるように講義資料を作成した。
(8) 医療安全学	2005 年 11 月 21 日	医療安全管理教育のテキストであり、「安全・安心医療の提供」と「医療の質の向上」をめざし、医療事故防止のための活用書を出版した（リスクマネジメントの講義用）。
(9) 接遇論	2014 年 4 月～現在	接遇論のテキストであり、医療人として必要な接遇、倫理、コミュニケーション力、診療放射線技師法、診療放射線技師の役割と責任等について分かりやすく理解できるように講義資料を作成した。
(10) 放射線治療機器学	2017 年 4 月～現在	放射線治療機器学のテキストであり、放射線治療機器・関連機器および薬機法について分かりやすく理解できるように講義資料を作成した。
3 当該教員の教育上の能力に関する大学等の評価		
(1) 学生による授業評価	2007 年後期	[授業科目：リスクマネジメント]

(広島国際大学) ・非常に優れている。 ・先生の講義はとても興味をもて、凄くてよい授業でした。 ・ディベート(討論)は良いと感じた。 ・とても臨床的で病院の実際が理解できた。 ・授業の進み具合が良く分かりやすかった。 ・医療事故の発生と防止について理解することができた。 ・病院で事故を起こさないために必要な知識を身につけられて良かった。 ・病院での危険な事は思っているよりたくさんあることが理解できた。 ・今まで理解していなかったが、この理解していないことが一番危険だと実感した。 ・AV機器でいろいろな事例とともに学べたことが良かった。 ・先生の経験上の話も聞いたので一層マネジメントに興味をもった。 ・臨床現場に立つことへの ・関心が持てたので受講して良かった。		保健医療学部において、全教員を対象に授業科目ごとに学生による授業評価を行った。授業評価は全体平均および学科平均よりも非常に高い。 良く理解できる 約 33% 理解できる 約 45% 全体の約 80%以上が理解できると回答している。
(2) 学生による授業評価 (広島国際大学) ・非常に優れている。 ・臨床に出た時に役立つ心得を習得できた。 ・診療放射線技師として働く上で、注意すべきことが学べた。 ・臨床現場での確認不足は、医療事故につながることを学べてよかった。 ・様々なリスクについて学べた。 ・実際の医療事事故例などがスライドで示され実感がわくものであった。	2008 年前期	[授業科目：リスクマネジメント] 保健医療学部において、全教員を対象に授業科目ごとに学生による授業評価を行った。授業評価は全体平均および学科平均よりも非常に高い。 良く理解できる 約 60% 理解できる 約 40% 100%の学生が理解できると回答している。 講義の目的や内容は適切だった 100% 説明は理解しやすかった 90% この講義を受講して良かった 100%
(3) 学生による授業評価 (広島国際大学) ・非常に優れている。 ・授業の終わりに復習のプリントをやってくれて、より身に付くことができた。	2008 年後期	[授業科目：放射線計測学] 保健医療学部において、全教員を対象に授業科目ごとに学生による授業評価を行った。授業評価は全体平均および学科平均よりも非常に高い。 [放射線計測学] 良く理解できる 約 80% 理解できる 約 20%

・授業中とても静かで集中しやすかった。 ・スクリーンが見やすかった。 ・ていねいで分かりやすかった。 ・AV機器を使った講義が非常にわかりやすかった。 ・放射線測定の知識が深まった。 ・咳が指定だったので授業に集中できた。		100%の学生が理解できると回答している。 また、 講義の目的や内容は適切だった 100% 説明は理解しやすかった 100% この講義を受講して良かった 100%
(4) 学生による授業評価 (広島国際大学) ・非常に優れている。 ・医療職についてから役に立つ講義であった。 ・非常に役立つ授業であると感じた。 ・学生に演習・発表させることによって意欲的に授業に取り込めた。 ・説明が理解しやすかった。 ・医療事故に対するリスクがよく理解できた。 ・授業での演習は非常に良かった。	2009年前期	[授業科目：リスクマネジメント] 保健医療学部において、全教員を対象に授業科目ごとに学生による授業評価を行った。授業評価は全体平均および学科平均よりも非常に高い。 良く理解できる 約100% 100%の学生が理解できると回答している。 また、 講義の目的や内容は適切だった 100% 説明は理解しやすかった 100% この講義を受講して良かった 100%
(5) 学生による授業評価 (広島国際大学) ・非常に優れている。 ・説明がわかりやすくてよかった。 ・配布資料が非常に良かった。 ・検出器について詳しく学べた。 ・单元ごとに分けて理解しやすかった。 ・授業が分かりやすかった。 ・授業中、教室が平穏で非常によかった。 ・国試の対策になり、非常によかった。	2009年後期	[授業科目：放射線計測学] 保健医療学部において、全教員を対象に授業科目ごとに学生による授業評価を行った。授業評価は全体平均および学科平均よりも非常に高い。 良く理解できる 約75% 理解できる 約25% 100%の学生がまあまあ以上理解できると回答している。また、 講義の目的や内容は適切だった 90% 説明は理解しやすかった 90% この講義を受講して良かった 90%
(6) 学生による授業評価 (広島国際大学) ・非常に優れている。 ・就職した時に必要になると思った。 ・とてもすばらしい授業で非常に良かった。 ・将来的に知っておかなければならないことを正しく理解することができ	2010年前期	[授業科目：リスクマネジメント] 保健医療学部において、全教員を対象に授業科目ごとに学生による授業評価を行った。授業評価は全体平均および学科平均よりも非常に高い。 説明は理解しやすかった理解できる 約97% 約100%の学生が理解できると回答している。 また、 教員の授業に対する熱意を感じた 97% 授業分野の興味が増した 94% この講義を受講して良かった 97%

た。 ・ 質問に対して親切に答えてくれて有り難かったです。 ・ プリントに書いていない臨床経験上の実際の話の聞けるのは良かった。								
(7) 学生による授業評価 (広島国際大学) ・ 非常に優れている。 ・ 広い範囲を細かく、分かりやすく教えてくれた。 ・ 集中できた授業であった。 ・ スライドが非常に見やすく、理解が深まった。 ・ 演習問題によって理解が深まった。 ・ 静かに落ちついて授業を受けることができた。 ・ 教室が静かで集中しやすかった。	2010年後期	[授業科目：放射線計測学] 保健医療学部において、全教員を対象に授業科目ごとに学生による授業評価を行った。授業評価は全体平均および学科平均よりも非常に高い。 説明は理解しやすかった 約 81% 約 81%の学生が理解できると回答している。 また、 <table><tr><td>教員の授業に対する熱意を感じた</td><td>87%</td></tr><tr><td>授業分野の興味が増した</td><td>76%</td></tr><tr><td>この講義を受講して良かった</td><td>94%</td></tr></table>	教員の授業に対する熱意を感じた	87%	授業分野の興味が増した	76%	この講義を受講して良かった	94%
教員の授業に対する熱意を感じた	87%							
授業分野の興味が増した	76%							
この講義を受講して良かった	94%							
(8) 学生による授業評価 (広島国際大学) ・ 非常に優れている。 ・ 体験談がいろいろ学べて説明よかった。 ・ 説明が丁寧で分かりやすい。 ・ 板書よりもスライドを用いた授業だったので、非常に分かりやすかった。 ・ 非常に実践的な話を聞けて良かった。 ・ 演習と発表の討論がとても楽しかった。 ・ 具体的な事故事例の話が良く聞けて分かりやすかった。 ・ 将来の仕事の具体的な危険因子をすることができたので、大変役立つ授業だと思う。	2011年前期	[授業科目：リスクマネジメント] 保健医療学部において、全教員を対象に授業科目ごとに学生による授業評価を行った。授業評価は全体平均および学科平均よりも非常に高い。 説明は理解しやすかった理解できる 約 100% 約 100%の学生が理解できると回答している。 また、 <table><tr><td>教員の授業に対する熱意を感じた</td><td>98%</td></tr><tr><td>授業分野の興味が増した</td><td>98%</td></tr><tr><td>この講義を受講して良かった</td><td>93%</td></tr></table>	教員の授業に対する熱意を感じた	98%	授業分野の興味が増した	98%	この講義を受講して良かった	93%
教員の授業に対する熱意を感じた	98%							
授業分野の興味が増した	98%							
この講義を受講して良かった	93%							
(9) 学生による授業評価 (広島国際大学) ・ 非常に優れている。 ・ 説明がとても分かりやすかった。 ・ 放射線取扱主任者試験の対策にもなる授業だった。 ・ 先生がやさしく教えてくれた非常に楽しい授業でした。 ・ すべてが良かった。	2011年後期	[授業科目：放射線計測学] 保健医療学部において、全教員を対象に授業科目ごとに学生による授業評価を行った。授業評価は全体平均および学科平均よりも非常に高い。 説明は理解しやすかった理解できる 約 97% 約 100%の学生が理解できると回答している。 また、 <table><tr><td>教員の授業に対する熱意を感じた</td><td>97%</td></tr><tr><td>授業分野の興味が増した</td><td>94%</td></tr><tr><td>この講義を受講して良かった</td><td>97%</td></tr></table>	教員の授業に対する熱意を感じた	97%	授業分野の興味が増した	94%	この講義を受講して良かった	97%
教員の授業に対する熱意を感じた	97%							
授業分野の興味が増した	94%							
この講義を受講して良かった	97%							

・スライドと練習問題で非常に分かりやすかった。 ・静かな授業で大変集中して勉強ができた。 ・講義の絵や写真によって理解が深まった。 ・重要なところで説明を加えて行って分かりやすかった。 ・非常に良い先生と思いました。 ・パワーポイントは大変わかりやすかった。 ・静かな教室を保ったうえで授業も面白くて興味ももてた。 ・広い範囲の内容であったけれども、まとめてあって勉強しやすかった。 ・プリントどおりで学習しやすかった。 ・先生の説明が分かりやすかった。 ・確認テストがあったので理解が深まった。 ・見やすく、重用な所をいていたので分かりやすかった。 ・とても分かりやすかった。 ・具体的な例が挙げられていたので、とても分かりやすかった。														
(10) 学生による授業評価 (広島国際大学) ・非常に優れている。 ・先生の具体的な例をまじえた講義が大変分かりやすかった。 ・講義だけでなく自分で調べた演習を取り入れ頭に入りやすかった。 ・リスク事例を詳しく知りことができよかった。働くのに必要不可欠な内容だった。	2012年前期	[授業科目：リスクマネジメント] 保健医療学部において、全教員を対象に授業科目ごとに学生による授業評価を行った。授業評価は全体平均および学科平均よりも非常に高い。 <table><tr><td>説明は理解しやすかった理解できる</td><td>約100%</td></tr><tr><td>約100%の学生が理解できると回答している。</td><td></td></tr><tr><td>また、</td><td></td></tr><tr><td>教員の授業に対する熱意を感じた</td><td>98%</td></tr><tr><td>授業分野の興味が増した</td><td>98%</td></tr><tr><td>この講義を受講して良かった</td><td>93%</td></tr></table>	説明は理解しやすかった理解できる	約100%	約100%の学生が理解できると回答している。		また、		教員の授業に対する熱意を感じた	98%	授業分野の興味が増した	98%	この講義を受講して良かった	93%
説明は理解しやすかった理解できる	約100%													
約100%の学生が理解できると回答している。														
また、														
教員の授業に対する熱意を感じた	98%													
授業分野の興味が増した	98%													
この講義を受講して良かった	93%													
(11) 学生による授業評価 (広島国際大学) ・非常に優れている。 ・先生の具体的な実体験例をまじえた講義が大変分かりやすかった。 ・座学だけでなく自分で調べ発表することで頭に入りやすかった。 ・実状が詳しく知りこ	2012年後期	[授業科：放射線計測学] 保健医療学部において、全教員を対象に授業科目ごとに学生による授業評価を行った。授業評価は全体平均および学科平均よりも非常に高い。 <table><tr><td>説明は理解しやすかった理解できる</td><td>約97%</td></tr><tr><td>約98%の学生が理解できると回答している。</td><td></td></tr><tr><td>また、</td><td></td></tr><tr><td>教員の授業に対する熱意を感じた</td><td>98%</td></tr><tr><td>授業分野の興味が増した</td><td>93%</td></tr><tr><td>説明は理解しやすかった</td><td>96%</td></tr></table>	説明は理解しやすかった理解できる	約97%	約98%の学生が理解できると回答している。		また、		教員の授業に対する熱意を感じた	98%	授業分野の興味が増した	93%	説明は理解しやすかった	96%
説明は理解しやすかった理解できる	約97%													
約98%の学生が理解できると回答している。														
また、														
教員の授業に対する熱意を感じた	98%													
授業分野の興味が増した	93%													
説明は理解しやすかった	96%													

ができてよかった。働くのに必要不可欠な内容だった。		この講義を受講して良かった	96%
・スライド用いた講義のため、分かりやすかった。 ・臨床現場に出てすぐに役立つ知識を得られて良かった。 ・病院業務におけるリスクへの危機感が一層増して良かった。 ・講義プリントがあって分かりやすかった。 ・分かりやすい授業でした。 ・リスク事例の発表がおもしろかった。			
(12) 学生による授業評価 (広島国際大学)	2013年前期	[授業科目：リスクマネジメント] 保健医療学部において、全教員を対象に授業科目ごとに学生による授業評価を行った。授業評価は全体平均および学科平均よりも非常に高い。	
・非常に優れている。 ・将来必ず役に立つので授業を履修して良かったです ・事例毎の研究発表は大変おもしろく、良い授業であった。 ・演習としての発表は非常に役立った。 ・医療事故のリスクが理解できた。 ・非常におもしろい授業でした。 ・事例を用いて発表もあり、いろいろ考えさせられる内容ですばらしかった。 ・分かりやすいスライドの講義であった。		説明は理解しやすかった理解できる	100%
		教員の授業に対する熱意を感じた	100%
		授業分野の興味が増した	100%
		この講義を受講して良かった	100%
(13) 学生による授業評価 (広島国際大学)	2013年後期	[授業科目：放射線機器安全管理学] 保健医療学部において、全教員を対象に授業科目ごとに学生による授業評価を行った。授業評価は全体平均および学科平均よりも非常に高い。	
・非常に優れている。 ・すばらして分かりやすい授業でした。 国試対策ができて非常に満足している。		授業は良かった	100%
		教員の授業に対する熱意を感じた	97%
		授業分野の興味が増した	97%
		講義は丁寧でわかりやすかった	97%
(14) 学生による授業評価 (広島国際大学)	2014年前期	[授業科目：リスクマネジメント] 保健医療学部において、全教員を対象に授業科目ごとに学生による授業評価を行った。授業評価は全体平均および学科平均よりも非常に高い。	
・非常に優れている。 ・すばらして講義であった。 ・教授の臨床経験を交えた講義はよかった。 ・学生の発表があり、とても勉強になった。		授業は良かった	98%
		シラバスの内容に基づいていた	98%
		教員の説明が丁寧で理解しやすかった	98%
		教員は教室を静かに保つ配慮をしていた	98%

(15) 学生による授業評価 (広島国際大学) ・非常に優れている。 ・すばらして分かりやすい授業でした。 国試対策ができて非常に満足している。	2014年前期	〔授業科目：放射線機器安全管理学〕 保健医療学部において、全教員を対象に授業科目ごとに学生による授業評価を行った。授業評価は全体平均および学科平均よりも非常に高い。 授業は良かった100% 科目に興味を持った99% シラバスの内容に基づいていた98% 授業分野の興味が増した98% 講義は丁寧でわかりやすかった97%
(16) 学生による授業評価	2015年前期	〔授業科目：放射線保健管理学〕 保健医療学部において、全教員を対象に授業科目ごとに学生による授業評価を行った。授業評価は全体平均および学科平均よりも優れている。 科目に興味を持った89% 専門分野の知見と事例を効果的に使用91% 授業は見やすくて分かりやすい93%
(17) 学生による授業評価	2015年後期	〔授業科目：放射線機器安全管理学〕 保健医療学部において、全教員を対象に授業科目ごとに学生による授業評価を行った。授業評価は全体平均および学科平均よりも非常に優れている。 理解しやすかった。92% 専門分野の知見と事例を効果的に使用96% 授業は見やすくて分かりやすい94%
(16) 学生による授業評価	2016年前期	〔授業科目：放射線保健管理学〕 保健医療学部において、全教員を対象に授業科目ごとに学生による授業評価を行った。授業評価は全体平均および学科平均よりも優れている。 熱意を感じた。91% 専門分野の知見と事例を効果的に使用83% 授業は見やすくて分かりやすい88%
(17) 学生による授業評価	2016年後期	〔授業科目：放射線機器安全管理学〕 学生による授業評価を行った。授業評価は全体平均および学科平均よりも優れている。 講義は丁寧で理解しやすかった。100% 専門分野の知見と事例を効果的に使用100% 授業は見やすくて分かりやすい100%
4 大学による教員評価	2008年度 2009年度 2010年度 2011年度 2012年度 2013年度 2014年度 2015年度 2016年度	評価[A] 評価[A] 評価[A] 評価[A] 評価[A] 評価[A] 評価[A] 評価[A] 評価[A]

5 実務家教員についての特記事項		
(1) 診療放射線技師としての長年にわたる診療業務等への従事 (国立病院)	1971 年 4 月～2007 年 3 月	国立病院病院において診療放射線技師、主任診療放射線技師、副診療放射線技師長、診療放射線技師長として 36 年間にわたり診療業務に従事した。特に、放射線治療では外部照射、腔内照射、組織内照射、治療計画、固定具の作製、術中照射、全身照射など誰よりも豊富な実務経験を培った。また、個々の施設では放射線障害防止法上の放射線取扱主任者に選任され、文部科学省や厚生労働省の立ち入り検査に問題なく対応した。また、診療業務だけでなく、病院の管理運営、経営改善、安全管理などさまざまな業務を担い、病院の発展、医療の質の向上、医療安全の確保に貢献した。国立長崎医療センターでは新病院の立ち上げに携わり、建屋の設計、放射線機器等の導入、医療法・放射線障害防止法への対応、電子カルテや放射線情報システムの構築などに参画し、実務を発揮した。このような豊富な業務経験を活かし、大学では、診療現場に合った講義、実験、臨床実習を示唆でき、診療放射線技師を目指す学生に対して適切な教育指導に役立っている。
(2) 放射線取扱主任者としての放射線安全管理・教育業務への従事 (国立病院)	1988 年 6 月～2007 年 3 月	臨床病院において、通算 12 年間にわたり放射線取扱主任者を務めた。大学においても教員が放射線安全管理業務を担った実績と経験を学生に教示することにより、診療放射線技師として必要な放射線安全管理、放射線防護管理、放射線保健管理学などに対する理解の促進が可能となる。
(3) 診療放射線技師養成校の実習学生の指導 (国立病院)	1976 年 4 月～2007 年 3 月	診療放射線技師養成校（九州大学、熊本大学、岐阜医療技術短期大学）の学生に対する臨床実習を教育指導した。この教育経験は、本大学の臨床実習、講義に覆いに役立っている。
(4) 放射線治療研究会の主催と実施 (放射線治療研究会)	1987 年 10 月～現在	26 年間にわたり地道にがん放射線治療の均てん化に向けて、放射線治療レベルの向上と医療安全を確保するために社会人である診療放射線技師の教育に努めた。放射線治療の最新技術を講義に取り入れ、理解を深めることに役立っている。
(5) 放射線治療セミナーの主催と実施 (放射線治療研究会)	1996 年 7 月～2017 年 7 月	16 年間にわたり放射線治療レベルの向上と医療安全を確保するために社会人である診療放射線技師の教育セミナーを実施している。臨床現場に役立つように放射線治療技術に関する講義と演習を実施している。放射線治療の最新技術を講義に取り入れ、理解を深めることに役立っている。
(6) 放射線治療専門放射線技師への教育セミナーの開催	2005 年 3 月～現在	放射線治療のレベル統一のために、放射線治療に携わる社会人の診療放射線技師のために講義によるセミナー

(放射線治療専門放射線技師認定機構)		ーを実施している。この経験は放射線治療技術学、放射線機器安全管理学、放射線保健管理学に反映され、有用である。
(7) 特別公開講座「咲楽塾」の開催 (広島国際大学)	2009年6月 2010年6月 2011年6月 2012年7月 2013年7月	2009年度咲楽塾「切らずに治す放射線治療ーがん医療を支える診療放射線技師ー」、2010年度咲楽塾「切らずに治す放射線治療ー肺癌、乳癌、前立腺癌、子宮頸癌ー」2011年度咲楽塾「放射線被ばくを知っていますか」、2012年度咲楽塾「体にやさしいがん高精度放射線治療」、2013年度咲楽塾「がん放射線療法の副作用と治療費ー肺がんー」を毎年開催・発表し、大学の使命である社会貢献を行った。
(8) がん医療における放射線治療の品質管理高度専門教育セミナーの実施 (広島国際大学)	2009年3月 2009年9月 2010年3月 2010年9月 2011年2月 2012年3月 2012年9月 2013年3月 2014年9月 2015年3月 2015年9月	がん対策基本法に対する附帯決議には、放射線療法及び化学療法についてがん医療における重要性が高まってきたことを踏まえ、卒前教育、卒後の臨床研修の各段階において、適切な教育、研修が行われるよう必要な措置を講ずる必要があり、1週間にわたる放射線治療装置を用いた品質保証・品質管理の高度専門教育セミナーを実施している。放射線治療レベルの向上、がん医療の均てん化、および医療安全の確保を担うため、米国式の品質管理の方法に基づいて実施している。わが国において唯一長期間で行う実務形のセミナーであり、評価が高い。
(8) 放射線治療用リニアックペーパークラフトの作製 (広島国際大学)	2013年8月 2014年8月	がん放射線療法および広島国際大学診療放射線学科の関心を高めるべく、高校生および中学生に対して放射線治療用リニアックペーパークラフトの作製を行い、優秀賞(クリスタルグラス)を授与した。
5 その他		
(1) 学内委員医療・福祉科学研究委員会	2010年4月～現在	大学院の運営などに関して審議した。
(2) 学内委員自己評価委員会	2010年4月～現在	教員の自己評価について、エビデンスに基づき適切に対応した。
(3) 学内委員放射線管理委員会	2010年4月～現在	放射線治療装置に関して関係法令に定められた安全管理および装置を実習・研究などにて適切に利用可能とするための管理などを行った。平成19年11月、平成22年には本学放射線施設に対する「RI 定期検査・定期確認」があり、対応した。
(4) 学内委員研究開発推進委員会	2012年4月～現在	教員の学術研究について研究開発を推進すべく対応した。
(5) 学内委員会倫理小委員会	2010年4月～現在	学部内の研究申請書類などについて倫理な問題を審議した。
(6) 学科内委員会予算委員会	2010年4月～現在	学科の運営のために適切な予算を執行するよう行った。
(7) 学科内委員会キャリア支援委員会	2007年4月～現在	学生の進路決定が優位にすすむように配慮するとともに、病院施設の人事担当者に就職の依頼および学生推薦を行った。
(8) 学科内委員会国試問題検討会	2007年4月～現在	国家試験に合格できるように実力試験や問題検討などを行った。
(9) 学科内委員会国試対策合同会	2007年4月～現在	学生の国家試験への取り組みが円滑にすすむよう他担当者と協議しながら運営を行った。
(10) 学科内委員会	2007年4月～現在	受験希望者に本学の魅力を適切に伝えられるよう対

オープンキャンパス世話人		応するとともに、特に福岡県放射線技師会に対して展示用パネルの一時的な提供を依頼し、オープンキャンパスで使用し、活性化に尽力した。
(11) 学科内委員会 内外実習委員会	2012 年 4 月～現在	大学内および臨床実習病院において円滑に臨床実習が行えるように配慮し、さまざまな発生する問題に対して対応を行った。
(12) 入学学生チューター	2007 年 4 月～現在	学生が大学生活、就職活動、国家試験への対応などを円滑に行えるように世話をした。
(13) 学科内委員会 健康フェア委員会	20010 年 9 月～現在	大学の社会貢献活動として、一般市民に保健医療の講演、展示を行い、大学と学科の特徴を啓蒙した。
(14) 大学内委員会 学部長会議	20014 年 4 月～現在	大学の企画運営等に参画した。
(15) 大学内委員会 大学院委員会	20013 年 4 月～20015 年 3 月	大学院の企画運営等に参画した。
(16) 大学内委員会 研究科委員会	2013 年 4 月～2017 年 3 月	研究科委員会の企画運営等に参画した。
(17) 大学内委員会 自己評価委員会	2014 年 4 月～2017 年 3 月	大学の評価について参画した。
(18) 大学内委員会 教員選考委員会	2014 年 4 月～2017 年 3 月	大学の教員選考について審議した。
(19) 大学内委員会 人権侵害防止委員会	2014 年 4 月～2017 年 3 月	大学の人権侵害防止に関する内容について審議した。
(20) 大学内委員会 利益相反マネジメント委員会	2014 年 4 月～2017 年 3 月	大学の利益相反に関する内容について審議した。
(21) 大学内委員会 入試委員会	2014 年 4 月～2017 年 3 月	大学の入試に関する内容について審議した。
(22) 大学内委員会 発明委員会	2014 年 4 月～2017 年 3 月	大学の発明に関する内容について審議した。
(23) 大学内委員会 個人情報保護委員会	2014 年 4 月～2017 年 3 月	大学の個人情報保護に関する内容について審議した。
(24) 大学内委員会 省エネルギー推進委員会	2014 年 4 月～2017 年 3 月	大学の省エネルギー推進に関する内容について審議した。
(25) 大学内委員会 放射線取扱主任者	2017 年 4 月～現在	放射線傷害防止法に関する放射線取扱主任者とし、放射線安全管理を行った。
職務上の実績に関する事項	年 月 日	概 要
1 資格、免許		
(1) 診療放射線技師免許取得 (登録番号 9 2 4 5 号)	1971 年 6 月	診療放射線技師法に基づく国家免許
(2) ガンマ線写真透過撮影作業主任者免許取得	1975 年 12 月	労働安全基準法に基づく都道府県知事免許
(3) 第 1 種作業環境測定士免	1982 年 2 月	作業環境測定士法に基づく国家免許

許取得（登録番号 40-448）		
(4) 第1種放射線取扱主任者免許取得（登録番号 第10504号）	1982年6月	放射線障害防止法に基づく国家免許
(5) 臨床実習指導者資格取得（日本放射線技師会）（第853号）	1989年1月	日本放射線技師会が定める臨床実習を行える資格
(6) 放射線腫瘍学認定技師資格取得（日本放射線腫瘍学会）（認技第G029）	2003年10月	日本放射線腫瘍学会が定める放射線腫瘍学の認定技師資格
(7) ST制度放射線治療専門技師資格取得（日本放射線技術学会）（第16C-185）	2004年12月	日本放射線技術学会が定める放射線治療専門技師資格
(8) 放射線治療品質管理士資格取得（放射線治療品質管理士機構）（第55号）	2005年2月	放射線治療品質管理機構が定める資格
(9) 放射線治療専門技師資格取得（日本放射線治療専門技師認定機構）（登録番号第00173号）	2005年10月	日本放射線治療専門放射線技師認定機構が定める放射線治療専門技師認定資格
(10) 技術士（原子力・放射線）一次試験合格（第83819号）	2007年12月	技術士法に基づく国家試験
(11) エックス線作業主任者免許取得（第34015783572号）	2015年3月	労働安全基準法に基づく都道府県知事免許
(12) 技術士（原子力・放射線）二次試験合格（第83819号）	2015年3月	技術士法に基づく国家試験。
(13) 技術士（原子力・放射線）登録（FR-21）	2015年4月	技術士法に基づく国家免許
2 特許等		
記載事項なし		
3 実務家教員についての特記事項		
記載事項なし		

4 その他		
(1) 2009 年度特別公開講座「健康フェア」の開催	2009 年 6 月	本大学保健医療学部診療放射線学科で年 2 回一般市民向けの特別公開講座「咲楽塾」を開催している。前期を担当してしており、「切らずに治す放射線治療ーがん医療を支える診療放射線技師ー」を開催し、大学の使命である社会貢献を行った。
(2) 2010 年度特別公開講座「健康フェア」の開催	2010 年 6 月	本大学保健医療学部診療放射線学科で年 2 回一般市民向けの特別公開講座「咲楽塾」を開催している。前期を担当してしており、「切らずに治す放射線治療ー肺癌、乳癌、前立腺癌、子宮頸癌ー」を開催し、大学の使命である社会貢献を行った。
(3) 2011 年度特別公開講座「健康フェア」の開催	2011 年 6 月	本大学保健医療学部診療放射線学科で年 2 回一般市民向けの特別公開講座「咲楽塾」を開催している。前期を担当してしており、「放射線被ばくを知っていますか」を開催し、大学の使命である社会貢献を行った。
(4) 2012 年度特別公開講座「健康フェア」の開催	2012 年 7 月	本大学保健医療学部診療放射線学科で年 2 回一般市民向けの特別公開講座「咲楽塾」を開催している。前期を担当してしており、「体にやさしいがん高精度放射線治療」を開催し、大学の使命である社会貢献を行った。
(5) 広島国際大学第 1 回がん医療における放射線治療の品質管理高度専門教育セミナーの開催	2009 年 3 月	本大学主催で、日本放射線技師会、日本放射線治療放射線専門技師、放射線治療研究会との共催で社会人の診療放射線技師を対象に外部放射線治療装置の品質管理の高度教育セミナーを実施した。講師には、米国の Ting 博士を招いた。
(6) 広島国際大学第 2 回がん医療における放射線治療の品質管理高度専門教育セミナーの開催	2009 年 9 月	本大学主催で、日本放射線技師会、日本放射線治療放射線専門技師、放射線治療研究会との共催で社会人の診療放射線技師を対象に外部放射線治療装置の品質管理の高度教育セミナーを実施した。社会人学び直し教育である。
(7) 広島国際大学第 3 回がん医療における放射線治療の品質管理高度専門教育セミナーの開催	2010 年 3 月	本大学主催で、日本放射線技師会、日本放射線治療放射線専門技師、放射線治療研究会との共催で社会人の診療放射線技師を対象に外部放射線治療装置の品質管理の高度教育セミナーを実施した。社会人学び直し教育である。
(8) 広島国際大学第 4 回がん医療における放射線治療の品質管理高度専門教育セミナーの開催	2010 年 9 月	本大学主催で、日本放射線技師会、日本放射線治療放射線専門技師、放射線治療研究会との共催で社会人の診療放射線技師を対象に外部放射線治療装置の品質管理の高度教育セミナーを実施した。社会人学び直し教育である。
(9) 広島国際大学第 5 回がん医療における放射線治療の品質管理高度専門教育セミナーの開催	2010 年 3 月	本大学主催で、日本放射線技師会、日本放射線治療放射線専門技師、放射線治療研究会との共催で社会人の診療放射線技師を対象に外部放射線治療装置の品質管理の高度教育セミナーを実施した。社会人学び直し教育である。
(10) 広島国際大学第 6 回がん医療における放射線治療の品質管理高度専門教育セミナーの開催	2012 年 3 月	本大学主催で、日本放射線技師会、日本放射線治療放射線専門技師、放射線治療研究会との共催で社会人の診療放射線技師を対象に外部放射線治療装置の品質管理の高度教育セミナーを実施した。社会人学び直し教育である。

(11) 広島国際大学第7回がん医療における放射線治療の品質管理高度専門教育セミナーの開催	2013年3月	本大学主催で、日本放射線技師会、日本放射線治療放射線専門技師、放射線治療研究会との共催で社会人の診療放射線技師を対象に外部放射線治療装置の品質管理の高度教育セミナーを実施した。社会人学び直し教育である。
(12) 広島国際大学第8回がん医療における放射線治療の品質管理高度専門教育セミナーの開催	2013年9月	本大学主催で、日本放射線技師会、日本放射線治療放射線専門技師、放射線治療研究会との共催で社会人の診療放射線技師を対象に外部放射線治療装置の品質管理の高度教育セミナーを実施した。社会人学び直し教育である。
(13) 広島国際大学9回がん医療における放射線治療の品質管理高度専門教育セミナーの開催	2014年3月	本大学主催で、日本放射線技師会、日本放射線治療放射線専門技師、放射線治療研究会、広島県との共催、広島市、東広島市、呉市で社会人の診療放射線技師を対象に外部放射線治療装置の品質管理の高度教育セミナーを実施した。社会人学び直し教育である。
(14) 広島国際大学第10回がん医療における放射線治療の品質管理高度専門教育セミナーの開催	2014年9月	本大学主催で、日本放射線技師会、日本放射線治療放射線専門技師、放射線治療研究会、広島県との共催、広島市、東広島市、呉市で社会人の診療放射線技師を対象に外部放射線治療装置の品質管理の高度教育セミナーを実施した。社会人学び直し教育である。
(15) 広島国際大学第11回がん医療における放射線治療の品質管理高度専門教育セミナーの開催	2015年3月	本大学主催で、日本放射線技師会、日本放射線治療放射線専門技師、放射線治療研究会、広島県との共催、広島市、東広島市、呉市で社会人の診療放射線技師を対象に外部放射線治療装置の品質管理の高度教育セミナーを実施した。社会人学び直し教育である。
(16) 広島国際大学第12回がん医療における放射線治療の品質管理高度専門教育セミナーの開催	2015年9月	本大学主催で、日本放射線技師会、日本放射線治療放射線専門技師、放射線治療研究会、広島県との共催、広島市、東広島市、呉市で社会人の診療放射線技師を対象に外部放射線治療装置の品質管理の高度教育セミナーを実施した。社会人学び直し教育である。
(15) 1th QA/QC training of Radiation therapy in USA の米国研修	2011年8月	A medical electron accelerator has to maintain irradiation precision of a prescription dose of radiation to irradiate to a cancer patient. Therefore a medical electron accelerator must perform QA and periodical QC. A QA model of a medical electron accelerator is suggested by ACR, IEC, AAPM, but, in a Radiotherapy institution of Japan, it is the situation groping for a method of the original QA which still matched one's institution. Therefore we grasp the actual situation of QA / QC of a medical electron accelerator in U.S.A. At the same time, to learn of concreteness at a clinical hospital and detailed QA / QC, we carry out the American training of 1th QA / QC of a medical electron accelerator. In addition, we let a QC altitude education seminar in a Radiotherapy carrying out twice a year in Hiroshima international university feeds back result of this

(16) 2th QA/QC training of Radiation therapy in USA の米国研修	2012 年 9 月	training and it is based on cancer measures fundamental law and performs social contribution. A medical electron accelerator has to maintain irradiation precision of a prescription dose of radiation to irradiate to a cancer patient. Therefore a medical electron accelerator must perform QA and periodical QC. A QA model of a medical electron accelerator is suggested by ACR, IEC, AAPM, but, in a Radiotherapy institution of Japan, it is the situation groping for a method of the original QA which still matched one's institution. Therefore we grasp the actual situation of QA / QC of a medical electron accelerator in U.S.A. At the same time, to learn of concreteness at a clinical hospital and detailed QA / QC, we carry out the American training of 1th QA / QC of a medical electron accelerator. In addition, we let a QC altitude education seminar in a Radiotherapy carrying out twice a year in Hiroshima international university feeds back result of this training and it is based on cancer measures fundamental law and performs social contribution.
--	-------------------	---

著書、学術論文等の名称		単著、 共著 の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
(著書)					
1	放射線管理学	共著	1995 年 3 月	通商産業研究社	医療用放射線の管理および患者の被ばく管理を中心とした内容、総ページ数 pp367、高田卓雄、松本正典、菊池透、佐藤幸光、東田善治、大塚昭義、砂屋敷忠、 <u>熊谷孝三</u> 、泉隆、池田尋隆、入江聖義、梅崎典良、放射線治療の管理：pp153-227、
2	放射線機器工学	共著	1996 年 5 月	南山堂	診療放射線技術選書の一つであり、診断、治療、核医学の放射線機器の本質的・基本的な事項に重点を置いた内容。総ページ数 P346、松井健一、新開英秀、松本政典、榊一宏、加藤誠、 <u>熊谷孝三</u> 、吉浦隆雄 M、内部照射用機器：pp230-241、放射線測定機器：pp256-270
3	放射線医療技術学叢書 「放射線治療技術マニュアル」	共著	1998 年 3 月	日本放射線技術学会出版委員会	放射線治療技術の水準を維持するための放射線技師の入門書の内容。総ページ数 pp234、 <u>熊谷孝三</u> 、岩崎浩思、泉隆、吉浦隆雄、松本光弘、廣木昭則、富吉司、岡田隆、矢野伸輔、秦潔、藤岡富雄、桜井誠、藤井洋司、後藤紳一、第 5 章治療技術、pp134-137
4	事例から学ぶ医療事故防止	共著	2000 年 7 月	日本評論社	事故事例をもとに医療事故防止についてまとめた内容。総ページ数 pp151、川村治子、吉利和、三辺謙、和田武雄、高岡正幸、横井郁子、 <u>熊谷孝三</u> 、松尾和雄、角南譲、伊東公子、鮎沢順子、小島恭子、2. コディカル部門における医療事故とその防止、放射線診療部門の医療事故、pp44-51
5	診療放射線技術選書 放射線治療技術 改訂 4 版	共著	2002 年 3 月	南山堂	放射線治療技術についてまとめた内容。総ページ数 pp169、増田康司、神宮賢一、泉隆、 <u>熊谷孝三</u> 、5. 線量評価 p64-79, b. 線源位置同定法 pp137-144
6	リスクマネジメント	共著	2002 年 10 月	医療科学社	医療事故防止法について低減と実践についてまとめた内容。総ページ数 pp182、村上陽一郎、橋本迪生、森田立美、西村健治、 <u>熊谷孝三</u> 、前田和彦編第 3 章第 3 節、インシデントレポート分析、事例集：123-158、
7	放射線治療における誤照射事故防止指針	共著	2003 年 2 月	日本放射線技術学会出版委員会	放射線治療における誤照射事故防止を示唆した指針。総ページ数 pp92、 <u>熊谷孝三</u> 、奥村雅彦、金子勝太郎、秋田和彦、泉隆、今井俊

					治、遠藤幸雄、大野吉美、神田哲弥、玖島利夫、2. 最適な放射線治療の実践、3. 誤照射事故の背景、4. 放射線治療における医療事故事例、5. リスクマネジメントと医療事故の対応、6. 治療計画装置の誤照射事故防止、7. モニタ単位計算における不均質補正、8. 投与線量の基準点：pp1～8、
8	外部放射線治療における保守管理マニュアル	共著	2003 年 4 月	日本放射線技術学会出版委員会	外部照射線治療で重要な保守管理全般についてまとめた内容。総ページ数 pp226、熊谷孝三、保科正夫、小口宏、吸収線量測定法：pp45～55
9	医療法における放射線遮へい計算申請実務マニュアル	単著	2004 年 8 月	医療科学社	医療法や障害防止法に基づき申請方法の実務書。総ページ数 pp520、pp1～520、
10	医療安全のための放射線治療手順マニュアル	共著	2005 年 10 月	日本放射線技師出版会	外部放射線治療について放射線治療手順、線量計算法当についてまとめた内容。総ページ数 pp191、青山裕一、穴井重男、熊谷孝三 他、第 1 章 序論、第 2 章 放射線治療の手順、第 3 章 外部照射および関連機器の取り扱い注意、pp5-38
11	医療安全学	共著	2005 年 11 月	医療科学社	医療事故防止と最適な放射線診療業務の実践についてまとめた内容。総ページ数 pp311、熊谷孝三、天内廣、村山茂康、西村健司、太田原美郎、諸済邦彦、平出博一、泉孝吉、東村亮治、第 1 章リスクマネジメントのあり方：pp17～42、リスクマネジメントシステムの立ち上げ：pp43～50、第 7 章造影剤のリスク要因と対応策：pp179～186、第 8 章放射線治療における事故防止対策：pp187～206、第 13 章放射線診療における事故防止マニュアル：pp285～298、
12	放射線治療における安全確保に関するガイドライン	共著	2005 年 11 月	日本放射線技師出版会	放射治療技術の安全を確保するための手引き書。総ページ数 pp87、木村千明、熊谷孝三、成田浩人、保科正夫、奥村雅彦、山森和美、佐藤弘史、行動指針、役割と責任、安全管理委員会、治療手順書、品質保証の重要性、事故防止対策、判断基準の考え方、pp1～51、
13	放射線治療における高エネルギー電子線の吸収線量測定マニュアル	単著	2007 年 4 月	日本放射線技師出版会	電子線測定法について基礎から測定法、例題までわかりやすく示した内容。総ページ数 pp481、熊谷孝三電子線の線量測定法、pp1-481
14	医療安全のための放射線治療計画装置の運用マニュアルー受入れ試験から日常管理までー	共著	2007 年 4 月	日本放射線技師出版会	治療計画装置の品質管理の手法を示した内容。総ページ数 pp229、熊谷孝三、穴井重男、大野吉美 他、外部照射治療のための治療計画装

					置、受け入れ試験などの契約行為の重要性、pp1-10
15	放射線治療技術学	共著	2006 年 10 月	オーム社	大学生を対象とした放射線治療であり、歴史、治療技術、臨床まで全般的に網羅した内容。総ページ数 pp337、 <u>熊谷孝三</u> 、寺嶋広美、保科正夫等線量評価、pp125-130、放射線治療の事故防止対策、pp250-262
16	放射線機器品質管理実践マニュアル 外部放射線治療装置	共著	2008 年 2 月	日本放射線技師出版会	外部放射線治療装置の品質管理と安全点検について体系化したテキスト。総ページ数 pp204、 <u>熊谷孝三</u> 、穴井重男、川村慎二、吉浦隆雄 他 総論、品質管理プログラム、pp10-51、概観検査 pp98
17	放射線治療技術の標準	共著	2007 年 4 月	日本放射線技師出版会	放射線治療専門放射線技師を育成するための標準テキスト、総ページ数 pp463、保科正夫、内山幸男、 <u>熊谷孝三</u> 、佐藤弘史 他、リスクマネジメント、pp293-351
18	診療放射線技師プロフェッショナル	共著	2008 年 10 月	文光堂	臨床現場で役立つノウハウのすべて、総ページ数 pp302、東村亮治、 <u>熊谷孝三</u> 、石森佳幸、諸澄邦彦 他、診療放射線技師に必用な医療安全、医療倫理のための基本的心得、pp140-150
19	がん治療を支えるチーム医療-診療放射線技師-	単著	2009 年 8 月	ピラールプレス	がん治療を支える診療放射線技師の役割とチーム医療への関わり方を示した書籍、総ページ pp195、熊谷孝三、pp1-195
20	新・医用放射線技術実験 第2版 基礎編	共著	2010 年 2 月	共立出版株式会社	診療放射線技師教育の学校で行われている専門科目の実験・実習が円滑に行われることを目的に編集された実験指導書、田中仁、山田勝彦、小川敬寿、 <u>熊谷孝三</u> 他、放射線計測学 5.4 吸収線量、pp137-157
21	がん放射線治療技術マニュアル	編著	2011 年 4 月	ピラールプレス	外部放射線治療の手法のノウハウを示したがん放射線治療の書籍、総ページ数 pp199、 <u>熊谷孝三</u> 、大浦弘樹、橘 昌幸、第1章 放射線治療に携わる医療職種とコンプライアンス、pp11-18、第2章 臨床における線量測定、pp19-23、第3章 放射線治療のリスクマネジメント、pp25-34、第4章 外部放射線治療装置と照射報放射線治療のリスクマネジメント、pp35-45、第5章 外部放射線治療装置および関連機器の取り扱い、pp47-54、第6章 放射線治療装置の不具合・故障時対応、および関連機器の取り扱い、pp55-66、第7章 外部放射線治療手順 pp67-70、第11章 放射線治療の設備構造・人的構造

					に関する基準、pp163-170、第12章 わが国における放射線治療の現状、pp171-185
22	放射線被ばくを知っていますかー放射線被ばくの危機管理ー	単著	2012年4月	ピラールプレス	放射線の発見、放射線防護夜明け、放射線と放射線被ばく、放射線の人体影響、放射線防護の考え方、食材の放射能汚染、被ばくの低減方法などを示した書籍、 <u>熊谷孝三</u> 、pp1-260
23	放射能が降ってきたの(絵本)	単著	2012年11月	ピラールプレス	幼稚園、小学生向けの放射線・放射能を理解するための絵本である。 <u>熊谷孝三</u> 、pp1-15
24	放射線医用辞典	共著	2013年4月	共立出版株式会社	放射線治療分野における辞典を執筆した。 <u>熊谷孝三</u> 、
25	外部放射線治療装置の品質保証・品質管理	編著	2013年7月	ピラールプレス	外部放射線治療装置の品質保証・品質管理のテキストを編著した。 <u>熊谷孝三</u> 、10-29、32-43、172-184、188-224
26	図解 診療放射線技術実践ガイド	共著	2013年2月	文光堂	放射線治療の保守管理について執筆した。 <u>熊谷孝三</u> 、936-945
27	2015年度版診療放射線技師国家試験過去問題集放射化学	共著	2014年9月	ピラールプレス	要点付きの診療放射線技師国家試験過去問題集である。
28	2015年度版診療放射線技師国家試験過去問題集診療画像機器学	共著	2014年9月	ピラールプレス	要点付きの診療放射線技師国家試験過去問題集である。
29	2015年度版診療放射線技師国家試験過去問題集診療画像検査学	共著	2014年9月	ピラールプレス	要点付きの診療放射線技師国家試験過去問題集である。
30	2015年度版診療放射線技師国家試験過去問題集核医学検査技術学	共著	2014年9月	ピラールプレス	要点付きの診療放射線技師国家試験過去問題集である。
31	2015年度版診療放射線技師国家試験過去問題集放射線治療技術学	共著	2014年9月	ピラールプレス	要点付きの診療放射線技師国家試験過去問題集である。
32	2015年度版診療放射線技師国家試験過去問題集医用画像情報学	共著	2014年9月	ピラールプレス	要点付きの診療放射線技師国家試験過去問題集である。
33	2015年度版診療放射線技師国家試験過去問題集放射線生物学	共著	2014年9月	ピラールプレス	要点付きの診療放射線技師国家試験過去問題集である。
34	2015年度版診療放射線技師国家試験過去問題集放射線物理学	共著	2014年9月	ピラールプレス	要点付きの診療放射線技師国家試験過去問題集である。
35	2015年度版診療放射線技師国家試験過去問題集医用工学	共著	2014年9月	ピラールプレス	要点付きの診療放射線技師国家試験過去問題集である。
36	2015年度版診療放射線技師国家試験過去問題集	共著	2014年9月	ピラールプレス	要点付きの診療放射線技師国家試験過去問題集である。

	放射線計測学				
37	2015年度版診療放射線技師国家試験過去問題集 X線撮影技術学	共著	2014年9月	ピラールプレス	要点付きの診療放射線技師国家試験過去問題集である。
38	2015年度版診療放射線技師国家試験過去問題集 画像工学	共著	2014年9月	ピラールプレス	要点付きの診療放射線技師国家試験過去問題集である。
39	2015年度版診療放射線技師国家試験過去問題集 放射線管理学	共著	2014年9月	ピラールプレス	要点付きの診療放射線技師国家試験過去問題集である。
40	受験生の皆さん 医療を支える診療放射線技師になろう	単著	2015年7月	ピラールプレス	受験生の少子化を見据えて本学の診療放射線学科に受験させるための本である。
41	がんの放射線療法（上）	単著	2015年7月	ピラールプレス	国民にがん放射線療法の知識を啓蒙させるための本である。
42	がんの放射線療法（上）	単著	2015年7月	ピラールプレス	国民にがん放射線療法の知識を啓蒙させるための本である。
43	放射線治療技術のハンドブック	単著	校正中	オーム社	がん放射線治療技術を系統的に網羅した本である。
44	診療放射線技師学生・大学院生のためのペーパーの書き方	単著	校正中	オーム社	診療放射線技師学生・大学院生のための論文、実習レポート等の書き方の本である。
(学術論文)					
1	透過型線量計による被曝管理	共同	1979年4月	厚生省放射線技師会雑誌、第90号、pp9-26	診断用X線領域の患者被曝線量を検討するために透過型線量計を制作し、被曝線量を面積線量計で評価した。総ページ数 pp18、吉浦隆雄、田島聖正、広瀬哲雄、熊谷孝三、吉津拓生、野口静夫、井上芳文、下平和臣、橋本正則、大場剛、谷口正義、宮本信、秋永不二夫、堤四郎、河野郁子、加賀良友喜、塩谷佳三、山中勉、甲斐千加子、担当頁特定不能
2	治療時の技術的諸問題	筆頭	1980年5月	日本放射線技術学会雑誌、第36巻、第6号、pp784-796	高線量率腔内治療時の技術的諸問題を検討し、子宮頸がん治療などの有用性を示唆した。総ページ数 pp13、熊谷孝三、担当頁特定不能
3	コリメータの形状変化による電子線の線量分布	筆頭	1980年6月	医療、35巻、第6号、pp553-559	各種コリメータについて電子線の線量分布、表面線量などを検討し、最適な臨床応用へ結びつけた。総ページ数 pp7、熊谷孝三、村田迪夫、担当頁特定不能
4	チェレンコフ光によるパルス放射線の出力波	共同	1983年7月	日本医学放射線物理部会	高エネルギーX線についてチェレンコフ法を利用して出力波

	形測定			誌、2(2)、pp117~124	形を測定し、ビームの調整に有用であることを示した。総ページ数 pp8、竹井 力、広瀬哲雄、 <u>熊谷孝三</u> 、担当頁特定不能
5	ハイパーサーミア	筆頭	1984 年 4 月	厚生省九州放射線技師会雑誌 第 23 号、pp11-13	ハイパーサーミアについて概説し、温熱療法の有用性を述べた。総ページ数 pp4、 <u>熊谷孝三</u>
6	気管の腺様嚢胞癌に対して外部照射及び腔内照射した 11 例	共同	1987 年 12 月	肺癌、第 27 巻、第 7 号、pp799-804	切除困難な気管の腺様嚢胞癌に対して医療効果を高めるために、腔内照射を行い、有効な結果を得た報告である。総ページ数 pp6、野下貞寿、三好真琴、野辺奉文、原 信之、 <u>熊谷孝三</u> 、担当頁特定不能
7	高エネルギー 6MV X 線治療における二次電子除去フィルターの評価	筆頭	1987 年 12 月	日本放射線技術学会雑誌、第 44 巻、第 5 号、pp527-533	二次電子除去フィルターによって放射線治療の皮膚反応を低減する方法を評価し、実際の臨床応用を行い、効果の改善が示された。総ページ数 pp7、 <u>熊谷孝三</u> 、担当頁特定不能
8	Evaluation of Secondary electron filter for removing contaminant electron high-energy 6MV X-ray beam.	筆頭	1988 年 10 月	Japanese Journal of Radiology Technology, Vol 7, No.1, Special.Issue. pp156	Summary:For removing secondary electrons, a lead Lucite filter was found best. 総ページ数 pp1, <u>Kozo Kumagai</u> ,
9	九州地区の放射線治療研究会	筆頭	1989 年 4 月	日本放射線技術学会、放射線治療分科会ニュース No. 2、pp3-10	調査に基づき放射線治療の実態、人的構造、施設構造、設備構造などを解明した。総ページ数 pp8、 <u>熊谷孝三</u>
10	放射線治療用ファントム	筆頭	1989 年 11 月	放射線治療研究会 10 年の歩み、pp125-140	放射線治療研究会 10 周年記誌において放射線治療用ファントムについて示した。総ページ数 pp16、 <u>熊谷孝三</u>
11	高エネルギー電子線の線量測定法	筆頭	1989 年 11 月	放射線治療研究会 10 年の歩み、pp149-173	放射線治療研究会 10 周年記誌において高エネルギー電子線の線量測定法について示した。総ページ数 pp25、 <u>熊谷孝三</u>
12	九州地区における固定具、補助具の現状—放射線治療精度向上への工夫—	共同	1990 年 2 月	日本放射線技術学会雑誌、第 46 巻、第 12 号、pp1936-1938	放射線治療の実施する上で必要な固定具や補助具について検討し、実例を加え、臨床応用の有用性示唆した。総ページ数 pp3、岩崎浩思、 <u>熊谷孝三</u> 、担当頁特定不能
13	電子線の吸収線量測定についての一考察 — 各種電離箱線量計の吸	筆頭	1991 年 1 月	日本放射線技術学会雑誌、第 47 巻、第 1 号、pp8-14	電子線の吸収線量測定において様々な電離箱線量計の吸収線量変換係数を理論的求め、臨床の総不確度を評価した。総ページ数 pp7、 <u>熊谷孝三</u> 、石松健

	収線量変換係数一				二、大塚辰也、荒木不次男、井芹卓見、河野猛、西本博美、文字洋一、小崎一宏、真野景子、河上勝美、吉本美加理、担当頁特定不能
14	電子線の吸収線量測定についての一考察ー平均入射エネルギーの決定法ー	筆頭	1991 年 1 月	日本放射線技術学会雑誌、第 47 巻、第 1 号、pp15-21	電子線の吸収線量測定において吸収線量の決定に必要な平均入射エネルギーを評価し、誤差を検討した。総ページ数 pp7、 <u>熊谷孝三</u> 、石松健二、大塚辰也、荒木不次男、井芹卓見、河野猛、西本博美、文字洋一、小崎一宏、真野景子、河上勝美、吉本美加理、担当頁特定不能
15	簡単な近似法による不整形照射野の照射野係数	共同	1991 年 3 月	日本放射線技術学会雑誌、第 4 巻、第 4 号、pp637-642	X 線治療で問題となる不整形照射計算について理論計算式を導き、実験値と比較し有用性を示唆した。総ページ数 pp6、荒木不次男、 <u>熊谷孝三</u> 、井芹卓見、河野猛、担当頁特定不能
16	高エネルギー電子線治療の線量測定マニュアル	筆頭	1991 年 3 月	日本放射線技術学会雑誌、第 47 巻、第 9 号、pp1670-1680	電子線治療での吸収線量測定の手順を示し、簡便な手法を示唆した。総ページ数 pp11、 <u>熊谷孝三</u> 、石松健二、大塚辰也、荒木不次男、井芹卓見、担当頁特定不能
17	電子線の吸収線量測定についての一考察ー吸収線量測定の簡便法ー	筆頭	1991 年 4 月	日本放射線技術学会雑誌、第 47 巻、第 4 号、pp630-636	電子線の吸収線量測定において高精度で簡便な方法を開発した。総ページ数 pp7、 <u>熊谷孝三</u> 、石松健二、大塚辰也、荒木不次男、井芹卓見、河野猛、西本博美、文字洋一、小崎一宏、真野景子、河上勝美、吉本美加理、担当頁特定不能
18	電子線治療における吸収線量測定のプロトコル(1)-簡略化手順による吸収線量測定-	筆頭	1991 年 7 月	日本放射線技師会雑誌、第 38 巻、第 7 号、pp808-815	電子線の線量測定において臨床現場で簡単にできる方法を評価した。総ページ数 pp8、 <u>熊谷孝三</u> 、荒木不次男、井芹卓見、石松健二、大塚辰也、担当頁特定不能
19	電子線治療における吸収線量測定のプロトコル(2)-患者の治療に必要な線量測定法-	筆頭	1991 年 8 月	日本放射線技師会雑誌、第 38 巻、第 8 号、pp1009-1012	電子線の線量測定において処方線量の決定に必要な線量測定パラメータの求め方を示唆した。総ページ数 pp4、 <u>熊谷孝三</u> 、荒木不次男、井芹卓見、石松健二、大塚辰也、担当頁特定不能
20	高エネルギー電子線における小照射野アプリケーションの出力係数	共同	1991 年 8 月	日本放射線技師会雑誌、第 38 巻、第 8 号、pp1009-1013	電子線治療においてアプリケーションの大きさによる出力や平均入射エネルギーの変化を評価した。総ページ数 pp5、荒木不次男、 <u>熊谷孝三</u> 、井芹卓見、担当頁特定不能

21	子宮頸癌の高線量率腔内照射における簡便な標準的照射条件設定について	共同	1991 年 9 月	日本放射線技師会雑誌、第 38 巻、第 10 号、pp1519-1527	高線量率腔内照射法について線量分布、照射条件の算出について短時間かつ容易に行えるチャート法を作成し、臨床応用の有用性を示した。総ページ数 pp9、 <u>荒木不次男、熊谷孝三、井芹卓見、高田千年</u> 、担当頁特定不能
22	Total Body Irradiation(TBI) Techniqu with Long SAD	筆頭	1992 年 4 月	Japanese Journal of Radiological Technology. No11 (Special Issue), pp99-113	We have described the physical characteristics of 6MV X-rays, basic TBI dosimetry, dose distribution in a phantom. 総ページ数 pp15、 <u>Kozo Kumagai</u>
23	リニアック 10MV X 線における肺の線量補正	共同	1993 年 1 月	日本放射線技術学会雑誌、第 49 巻、第 1 号、pp32-38	リニアック 10MVX 線を用いて肺野の線量補正について検討し、理論式の TAR 法は照射野が大きくなると線量誤差 15%と大きくなる示した。総ページ数 pp7、 <u>荒木不次男、熊谷孝三</u> 、担当頁特定不能
24	リニアック 10MV X 線を用いた前後左右 4 門照射による全身照射法	共同	1993 年 12 月	日本放射線技術学会雑誌、第 49 巻、第 12 号、pp1999-2005	リニアック 10MVX 線による骨髄移植を前提とした全身照射法の手技、報奨、線量分布等を評価し、目や肺の専用補正の重要性を示唆した。総ページ数 pp6、 <u>荒木不次男、熊谷孝三、井芹卓見</u> 、担当頁特定不能
25	放射線治療技術の標準化のための線量評価法の実態調査一特に投与線量の表示法について	筆頭	1994 年 5 月	日本放射線技術学会雑誌、第 50 巻、第 5 号、pp666-682	放射線治療の標準化を確立するために、放射線治療の実態調査を行い、様々の問題点を示唆した。総ページ数 pp13、 <u>熊谷孝三、吉浦隆雄、泉 隆</u> <u>荒木不次男、高田卓雄、神宮賢一</u> 、担当頁特定不能
26	喉頭癌の放射線治療	筆頭	1994 年 6 月	日本放射線技術学会雑誌、第 50 巻、第 6 号、pp778-791	喉頭癌の標準的な放射線治療を概説し、図表で評価した。総ページ数 pp134、 <u>熊谷孝三、吉浦隆雄、泉 隆</u> <u>荒木不次男、高田卓雄、神宮賢一</u> 、担当頁特定不能
27	標準測定法の電子線エネルギーの問題点	筆頭	1995 年 7 月	コニカ X ーレイ写真研究、Vol. 46, No. 4 , pp100-104	放射線治療における電子線エネルギーの基本的な考え方と線量測定の見点からエネルギー決定法の問題点について示唆した。総ページ数 pp5、 <u>熊谷孝三</u>
28	Various Problem of Dosimetry Regarding Radiotherapy - Measurapent Theory	筆頭	1995 年 10	Japanese Journal of Radiological Technology, Vol 11, No.1,1, pp138-144	It is necessary to excecute the highly accurate dosimetry, to carry studies from learning about the dosimetric theory to clinical applications of the

	and Clinical Applications- , Summary by Chairman				procedures for dosimetry systematically and discuss the matters of issue. 総ページ数 pp7、 <u>Kozo Kumagai</u>
29	Various Problem of Dosimetry Regarding Radiotherapy - Measurapent Theory and Clinical Applications -, Dosimetry for Radiotherapy.	筆頭	1995 年 10 月	Japanese Journal of Radiological Technology, Vol 11, No. 1, pp124-137	We studied about specifications of equivqlence, modality, composition of human tissue, formulation techniques, basic interaction data, requirement condition and care regarding use. 総ページ数 pp14、 <u>Kozo Kumagai</u>
30	6MV X 線における全身照射法—人体ファントム中の線量分布—	筆頭	1996 年 3 月	日本放射線技術学会雑誌、第 52 巻、第 3 号、pp549-555	人体ファントムを用い、6MVX 線の様々な照射法での線量分布を測定評価し、投与線量の誤差を解析した。総ページ数 pp7、 <u>熊谷孝三</u>
31	標準測定法における X 線エネルギーの問題点	筆頭	1996 年 5 月	日本放射線技術学会雑誌、第 52 巻、第 3 号、pp408-411	放射線治療領域の X 線エネルギーについて測定方法と決定指標、および問題点を示唆した。総ページ数 pp4、 <u>熊谷孝三</u>
32	膀胱癌の放射線治療	筆頭	1996 年 10 月	日本放射線技術学会雑誌、第 52 巻、第 1 号、pp778-791	膀胱癌の標準的な放射線治療を概説し、図表で評価した。総ページ数 pp14、 <u>熊谷孝三</u> 、吉浦隆雄、泉 隆荒木不次男、高田卓雄、神宮賢一、担当頁特定不能
33	放射線治療用測定ファントム	筆頭	1995 年 11 月	放射線治療研究会雑誌—X 線発見 100 年記念—	放射線治療用測定ファントムについて、歴史、ファントムの特性、化学組成、使用上の注意などについて示唆した。総ページ数 pp28、 <u>熊谷孝三</u>
4 33	難治性白血病の骨髄移植を前提とした全身照射法の研究（第 1 報）—照射法の変遷と TBI 技術—	筆頭	1996 年 11 月	日本放射線技師会雑誌、第 43 巻、第 11 号、pp1602-1609	全身照射法の標準化と最適化について検討を行い、適応疾患、照射法、線量配分、線量率、補償物質、投与線量基準点、報告の明記法などについて評価した。総ページ数 pp8、 <u>熊谷孝三</u>
35	難治性白血病の骨髄移植を前提とした全身照射法の研究（第 2 報）—Long SAD 法における治療装置の物理的特性—	筆頭	1996 年 11 月	日本放射線技師会雑誌、第 43 巻、第 1 号、pp1610-1616	全身照射法の long SAD 法を実施するための治療装置の物理特性を検討した。総ページ数 pp7、 <u>熊谷孝三</u>
36	難治性白血病の骨髄移植を前提とした全身照射法の研究（第 3 報）—人体ファントム中の	筆頭	1996 年 11 月	日本放射線技師会雑誌、第 43 巻、第 11 号、pp1617-1625	long SAD 法で全身照射した人体ファントムの線量分布をさまざまな照射法で測定し、4 門照射法が優れた方法であり、ボー

	線量分布一				ラスの補償の必要性を示した。 総ページ数 pp9、 <u>熊谷孝三</u>
37	難治性白血病の骨髄移植を前提とした全身照射法の研究（第4報） ー補償具及び固定具ー	筆頭	1996 年 11 月	日本放射線技師会雑誌、 第 43 巻、第 11 号、 pp1626-1632	全身照射法で均等に吸収線量を投与するために、患者の固定具、補償帯について検討を加え、補償の部位と補償体の人体等価厚を求める方法を示した。 総ページ数 pp7、 <u>熊谷孝三</u>
38	難治性白血病の骨髄移植を前提とした全身照射法の研究（第5報） ー全身照射法の実際ー	筆頭	1996 年 11 月	日本放射線技師会雑誌、 第 43 巻、第 11 号、 pp1633-1643	全身照射法の 23 の臨床例を示し、具体的な治療手順と具体的な照射法を示した。総ページ数 pp11、 <u>熊谷孝三</u>
39	難治性白血病の骨髄移植を前提とした全身照射法の研究（第6報） ー投与線量の解析（患者の透過線量の測定）	筆頭	1996 年 12 月	日本放射線技師会雑誌、 第 43 巻、第 12 号、 pp1731-1741	全身照射法において患者のインビボ測定から、投与線量の精度を示し、間質性肺炎防止のための補償物質の必要性を示唆した。総ページ数 pp11、 <u>熊谷孝三</u>
40	難治性白血病の骨髄移植を前提とした全身照射法の研究（第7報） ー投与線量の解析（患者の食道・直腸内の吸収線量測定）	筆頭	1996 年 12 月	日本放射線技師会雑誌、 第 43 巻、第 12 号、 pp1742-1751	全身照射法において患者のインビボ測定から食道、直腸の照射線量を解析し、照射法の有用性を評価した。総ページ数 pp10、 <u>熊谷孝三</u>
41	難治性白血病の骨髄移植を前提とした全身照射法の研究（第8報） ーTBI における照射記録簿の作成	筆頭	1996 年 12 月	日本放射線技師会雑誌、 第 43 巻、第 12 号、 pp1752-1756	全身照射法は正確な治療計画に基づいて実施されるために TBI 技術に関連するパラメータを明確に記録する方法が必要であり、照射記録簿を作成し、照射結果などの施設間の相互評価への有用性を示唆した。総ページ数 pp5、 <u>熊谷孝三</u>
42	難治性白血病の骨髄移植を前提とした全身照射法の研究（第9報） ーTBI 治療時における落下菌 テスト	筆頭	1996 年 12 月	日本放射線技師会雑誌、 第 43 巻、第 12 号、 pp1757-1760	骨髄移植の患者は全身照射法や化学療法により免疫学的機能が抑制されるために、感染予防の方法が必要である。そのため、照射室の消毒液の空中噴霧消毒の有用性をテストし、有用であることを証明した。総ページ数 pp4、 <u>熊谷孝三</u>
43	難治性白血病の骨髄移植を前提とした全身照射法の研究（第10報） ー移植片対宿主病予防のための血液照射	筆頭	1996 年 12 月	日本放射線技師会雑誌、 第 43 巻、第 12 号、 pp1761-1764	全身照射した患者は、骨髄移植を行うために移植片対宿主反応を生じる可能性があるため、輸血用血液製剤に含まれる T リンパ球を不活性科するための照射法を示した。総ページ数 pp4、 <u>熊谷孝三</u>

44	放射線治療における高エネルギー電子線の線量測定法と問題点	筆頭	1997 年 1 月	日本放射線技術学会雑誌、第 53 巻、第 1 号、pp29-36	電子線の吸収線量測定法は困難であるため、JARP 測定プロトコルに準拠して電子線の吸収線量計算を簡単に十で切る方法を示すとともに問題点も示唆した。総ページ数 pp8、 <u>熊谷孝三</u>
45	放射線治療の極意(1)	筆頭	1998 年 5 月	コニカ X レイ写真研究、Vol. 49. No. 3、pp96-101	放射線治療の役割は、組織の機能を温存して悪性腫瘍を根治させることであり、放射線作用、放射線エネルギーの伝播、放射線物質との相互作用、放射線感受性、生存率曲線、腫瘍コード、放射線効果について示した。総ページ数 pp5、 <u>熊谷孝三</u> 、和田進
46	放射線治療の極意(2)	筆頭	1998 年 7 月	コニカ X レイ写真研究、Vol. 49. No. 4、pp128-133	放射線治療法、放射線治療機器、照射野ための体積、治療可能比、物理および生物学的な治療戦略、分割照射法などの極意を示唆した。総ページ数 pp6、 <u>熊谷孝三</u> 、和田進
47	放射線治療の極意(3)	筆頭	1998 年 9 月	コニカ X レイ写真研究、Vol. 49. No. 5、pp156-161	医療用リニアックの進歩、放射線治療の適応、放射線障害、治療システム、スタッフの日米間比較などについて検討し、最適な治療法を示した。総ページ数 pp6、 <u>熊谷孝三</u> 、和田進
48	放射線診療部門における危機管理の研究(1)ー受付業務、一般撮影、ポータブル撮影、造影検査、血管造影ー	筆頭	1998 年 9 月	医療、第 52 巻、第 9 号、pp548-552	放射線診療によるリスク事例を調査し、一般撮影、ポータブル撮影、造影検査、血管造影検査について医療事故の予防法を示した。総ページ数 pp5、 <u>熊谷孝三</u> 、折田信一、田畑信幸、酒本 司、井芹卓見、西本博美、井出口忠光、担当頁特定不能
49	放射線診療部門における危機管理の研究(2)ーCT 検査、MRI 検査、核医学検査、放射線治療、超音波検査ー	筆頭	1998 年 10 月	医療、第 52 巻、第 10 号、pp601-604	放射線診療によるリスク事例を調査し、CT 検査、MRI 検査、核医学検査、超音波検査について医療事故予防法を示した。総ページ数 pp4、 <u>熊谷孝三</u> 、折田信一、田畑信幸、酒本 司、井芹卓見、西本博美、井出口忠光、担当頁特定不能
50	放射線診療部門における危機管理の研究(3)ー患者の質問と苦情ー	筆頭	1998 年 11 月	医療、第 52 巻、第 11 号、pp662-666	放射線診療によるリスク事例を調査し、患者の質問と苦情についてその予防法を示した。総ページ数 pp5、 <u>熊谷孝三</u> 、折田信一、田畑信幸、酒本 司、井芹卓見、西本博美、井出口忠光、担当頁特定不能
51	A study of risk management for a	筆頭	september 19-23-1998 Makuhari, Japan	11th ISRRT WORLD CONGRESS HANDBOOK、pp338	We discuss medical injury prevention and risk manegement. 総ページ数 ppl、 <u>Kozo Kumagai</u> , Shinichi Orita,

	department of Radiology-(part 1) Medical injury prevention and risk management-,				Nobuyuki Tabata, Tsukasa Sakemoto, Takao Yoshiura、担当頁特定不能
52	A study of risk management for a department of Radiology-(part 2) Accident cases due to mistakes of receptionist, plain radiographic techniques and ward radiographic techniques	筆頭	september 19-23-1998 . Makuhari, Japan	11th ISRRT WORLD COGRESS HANDBOOK、pp339	We discuss mistake of receptionist , plain radiographic techniques and ward radiographic techniques. 総ページ数 pp1、Shinichi Orita, <u>Kozo Kumagai</u> , Nobuyuki Tabata, Tsukasa Sakemoto, Takao Yoshiura、担当頁特定不能
53	A study of risk management for a department of Radiology -(part 3) Accident cases due to contrast radiographic techniques, angiography, CT, and MRI	筆頭	september 19-23-1998 . Makuhari, Japan	11th ISRRT WORLD COGRESS HANDBOOK、pp340	We discuss accident cases due to contrast radiographic techniques, angiography, CT, and MRI. 総ページ数 pp1、Tsukasa Sakemoto, <u>Kozo Kumagai</u> , Nobuyuki Tabata, Shinichi Orita, Takao Yoshiura. 担当頁特定不能
54	A study of risk management for a department of Radiology-(part 4) Accident cases due to nuclear medicine, radiotherapy and ultrasonography-	筆頭	september 19-23-1998 . Makuhari, Japan	11th ISRRT WORLD COGRESS HANDBOOK、pp341	We discuss accident cases due to nuclear medicine, radiotherapy and ultrasonography 総ページ数 pp1, Takao Yoshiura, <u>Kozo Kumagai</u> , Nobuyuki Tabata, Shinichi Orita, Tsukasa Sakemoto. 担当頁特定不能
55	A study of risk management for a department of Radiology- (part 5)	筆頭	september 19-23-1998 . Makuhari, Japan	11th ISRRT WORLD COGRESS HANDBOOK、pp342	We discuss medical trouble due to patient's questions and complains. 総ページ数 pp1, Nobuyuki Tabata, <u>kozo Kumagai</u> , Takao Yoshiura, Shinichi Orita, Tsukasa

	Medical troubles due to patients question and complains -				Sakemoto. 担当頁特定不能
56	放射線診療におけるリスクマネジメントの研究 第1報 リスクマネジメントのあり方	筆頭	1999年1月	日本放射線技師会雑誌、第46巻、第1号、pp69-77	リスクマネジメントの基本的なあり方、医療事故の定義、診療放射線技師とインフォームドコンセント、守秘義務、PL法、トラブルの対応などについて報告した。総ページ数 pp9、 <u>熊谷孝三</u> 、折田信一、田畑信幸、酒本 司、吉浦隆雄、担当頁特定不能
57	放射線診療におけるリスクマネジメントの研究、第2報 リスク事例の調査と分析	筆頭	1999年1月	日本放射線技師会雑誌、第46巻、第1号、pp78-90	リスク調査結果から高頻度に発生するリスク事例を把握し、事例の分析、防止対策について報告した。総ページ数 pp13、 <u>熊谷孝三</u> 、折田信一、田畑信幸、酒本 司、吉浦隆雄、担当頁特定不能
58	放射線診療におけるリスクマネジメントの研究、第3報 リスク事例	筆頭	1999年2月	日本放射線技師会雑誌、第46巻、第2号、pp186-215	リスク調査結果をもとに、事例内容をもダリティ別にリスク事例集としてまとめ、事故対策法を報告した。総ページ数 pp30、 <u>熊谷孝三</u> 、折田信一、田畑信幸、酒本 司、吉浦隆雄、担当頁特定不能
59	放射線診療におけるリスクマネジメントの研究、第4報 リスク事例のドキュメント	筆頭	1999年3月	日本放射線技師会雑誌、第46巻、第3号、pp295-307	医療事故を発生させないために、医療過誤訴訟の現状やその要因および過去に起こった医療過誤訴訟事例や医療事故事例を調査し、報告した。総ページ数 pp13、 <u>熊谷孝三</u> 、折田信一、田畑信幸、酒本 司、吉浦隆雄、担当頁特定不能
60	放射線診療におけるリスクマネジメントの研究、第5報 医療事故防止対策	筆頭	1999年3月	日本放射線技師会雑誌、第46巻、第3号、pp308-315	医療事故・医療紛争の背景と問題点を研究し、その防止策について報告した総ページ数 pp7。 <u>熊谷孝三</u> 、折田信一、田畑信幸、酒本 司、吉浦隆雄、担当頁特定不能
61	放射線診療におけるリスクマネジメントの研究、第6報 トラブル発生時の対応	筆頭	1999年3月	日本放射線技師会雑誌、第46巻、第3号、pp316-326	リスクについて特に妊婦の被曝、造影剤の副作用、外傷事故、苦情などのトラブル発生時に適切な対応を行うためにフローチャートを作成し、そのリスク事故への対応を報告した。総ページ数 pp11。 <u>熊谷孝三</u> 、折田信一、田畑信幸、酒本 司、吉浦隆雄、担当頁特定不能
62	子宮頸癌の放射線治療	筆頭	1999年11月	放射線治療研究会雑誌、Vol. 12, No. 1, pp3-20	子宮頸癌の標準的な放射線治療を概説し、図表で評価した。総ページ数 pp18、 <u>熊谷孝三</u> 、和田 進、塚本直樹、担当頁特定

63	CT ガイド下法の実 と問題点	共同	2000 年 5 月	厚生省九州放射線技師会 雑誌、第 67 号、pp8-12	IVR 手技に伴う穿刺角度の再現性、合併症の危険性、放射線被曝の問題を検討し、検査時間の短縮と放射線被曝の低減を研究した。総ページ数 pp5、川崎年久、大野利隆、塩谷 徹、豊永真紀子、谷口正義、 <u>熊谷孝三</u> 、担当頁特定不能
64	メディカルコミュニ ケーションエラー 第1 報 発生事例とその原 因	共同	2000 年 9 月	厚生省九州放射線技師会 雑誌、第 68 号、pp24-25	放射線診療で報告されたトラブルやニアミスについてメディカルコミュニケーションエラーと考えられる事例を検証した。総ページ数 pp2、塩谷徹、大野利隆、野田一也、豊永真紀子、川口 徹、谷口正義、 <u>熊谷孝三</u> 、担当頁特定不能
65	メディカルコミュニ ケーションエラー 第2 報 問題解決法と基礎 的分析	共同	2000 年 9 月	厚生省九州放射線技師会 雑誌、第 68、pp26-27	メディカルコミュニケーションエラーのエラー型別の頻度、エラー要因の頻度を明確に示した。総ページ数 pp2、豊永真紀子、大野利隆、大矢雅人、福井重和、下村雄生、塩谷 徹川崎年久、谷口正義、 <u>熊谷孝三</u> 、担当頁特定不能
66	全国放射線治療施設の 1999 年定期構造調査 結果	共同	2000 年 10 月	日本放射線腫瘍学会雑 誌、13、pp227-235	全国の放射線治療施設を対象に孝三調査を行い、わが国の放射線治療の実態を明確にした。総ページ数 pp9、西尾正道、稲邑清也、安藤 裕、稲越英樹、柏原賢一、佐藤慎一郎、永田清、西嶋博司、野本健二、福久健一郎、池田 恢、梅田徳雄、 <u>熊谷孝三</u> 、関口健司、中川富夫、西村哲夫、原内 一、村上昌雄、担当頁特定不能
67	放射線治療装置の保守 管理ーユーザの言い分 「日立メディコに対し て」ー	共同	2000 年 10 月	放射線治療研究会雑誌、 Vol. 13. No. 1、pp35-36	マイクロトロン of 保守管理とメーカーの対応について検討した。総ページ数 pp2、下村雄生、 <u>熊谷孝三</u> 、浦本雅巳、川崎年久、和田 進、担当頁特定不能、担当頁特定不能
68	原体照射法の基礎	筆頭	2001 年 1 月	コニカ X レイ写真研究、 Vol. 52. No. 1、pp6-16	高精度のマルチリーフを装備したリニアックシステムを用いた原体照射法について報告した。総ページ数 pp11、 <u>熊谷孝三</u> 、和田 進、浦本雅巳、下村雄大、陣内秀昭、担当頁特定不能

69	放射線治療用高エネルギー電子線における不均質組織ファントム中の線量分布の検討	筆頭	2001 年 1 月	医療の広場、01-1、pp18-29	人体組織の胸部領域を水等価ファントムト肺組織ファントムで単純モデル化し、電子線束の線量分布の変化について検討を行い、照射野が大きくなれば、入射電子線の投下度が大きくなることなどを示唆した。総ページ数 pp12、 <u>熊谷孝三</u> 、荒木不次男、和田 進、担当頁特定不能
70	リスクマネジメントを最大限考慮した組織のあり方	筆頭	2001 年 7 月	全国国立病院療養所放射線技師会雑誌、第 175 号、pp19-22	リスクマネジメントについて、チーム医療で確実に医療事故を防止するためには、個々の部門が独立した組織を構築し、責任と役割が重要であることを示した。総ページ数 pp4、 <u>熊谷孝三</u>
71	21 世紀の放射線治療はこう変わる－新技術の展望と次世紀への期待－	筆頭	2001 年 7 月	日本放射線技師会雑誌、第 57 巻、第 7 号、pp765-766	最新の放射線治療の現状を把握し、最新のトピックスを交えて新しい時代の放射線治療の展望と動向について明確にした。総ページ数 pp2、 <u>熊谷孝三</u>
72	21 世紀の放射線治療はこう変わる－最新の放射線治療技術 IMRT ー	筆頭	2001 年 7 月	医療、第 56 巻、第 3 号、pp180-182	最新の放射線治療技術を有する放射線強度変調照射法の基本的な特性と問題点を言及し、その有用性を示した。総ページ数 pp3、 <u>熊谷孝三</u>
73	最先端医用画像シリーズ：ネットワーク型医療の連携	筆頭	2002 年 3 月	九州国立病院療養所放射線技師会雑誌、第 74 号、pp38-41	放射線診療においてフィルムレスを視野に入れた電子カルテを展望し、病院情報システム、放射線情報システム、モダリティ、放射線画像システムを機能的に結びつけたネットワークシステムを構築し、その有用性を示した。総ページ数 pp4、 <u>熊谷孝三</u>
74	当院における放射線画像情報ネットワークシステムの構築	共同	2002 年 10 月	九州国立病院療養所放射線技師会雑誌、第 74 号、pp38-41	放射線診療においてフィルムレス化、電子カルテを展望した HIS、RIS、モダリティ、PACS の自動的な融合、画像通信の高速性、高信頼性などに重点をおいたネットワークシステムの構築について明確にした。総ページ数 pp4、 <u>花房豊宜</u> 、 <u>田中範司</u> 、 <u>熊谷孝三</u> 、担当頁特定不能
75	放射線業務のリスクマネジメントー、効果的な安全管理体制を構築するためにー	筆頭	2002 年 11 月	日本放射線技術学会雑誌第 58 巻、第 11 号、pp1438-1443	医療事故を防止し、効果的な安全管理体制を構築していくために、患者の安全こそが最も重要であるという意識を共有し、医療事故防止への安全文化醸成させる取り組みの有用性を明らかにした。総ページ数 pp6、 <u>熊谷孝三</u>
76	放射線治療における誤照射事故防止	筆頭	2003 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、Vol. 16、No. 1、pp49-55	発生した放射線治療の事故事例の教訓から、それらの事故原

					因を分析し、品質管理の重要性を明確にした。総ページ数 pp7、 <u>熊谷孝三</u>
77	放射線部のリスクマネジメントー誤照射事故防止のための電子線測定法の新たな提案ー	筆頭	2004 年 5 月	Radiology Frontier、Vol 07、No. 2、pp33-40	放射線治療における誤照射事故を防止するために、運用が非常に複雑な電子線測定法についてプロトコルを新たに提案し、有用性を示唆した。総ページ数 pp8、 <u>熊谷孝三</u> 、島村正道、的場優、担当頁特定不能
78	放射線業務における医療事故防止に関する学術調査 第一報 リスク事例の調査分析	筆頭	2004 年 5 月	日本放射線技術学会雑誌、第 60 巻、第 5 号、pp676-685	医療事故の社会的背景を受け、各施設における事故防止に関するアンケート調査と放射線業務に存在するリスク事例の調査を実施し、報告した。総ページ数 pp10、 <u>熊谷孝三</u> 、天内廣、大田原美郎、西村健司、森田立美、担当頁特定不能
79	放射線業務における医療事故防止に関する学術調査 第二報 一般撮影、ポータブル撮影、透視造影検査、血管造影検査のリスク事例	筆頭	2004 年 6 月	日本放射線技術学会雑誌、第 60 巻、第 6 号、pp787-795	調査に基づきリスク事例の一般撮影、ポータブル撮影、透視造影検査、血管造影検査について報告した。総ページ数 pp9、 <u>熊谷孝三</u> 、天内 廣、大田原美郎、西村健司、森田立美、担当頁特定不能
80	. 放射線治療における事故事例と事故防止対策ー誤照射事故の立ち入り調査の教訓ー	共同	2004 年 6 月	日本放射線技術学会雑誌、第 60 巻、第 6 号、pp755-757	放射線治療の誤照射事故の立ち入り調査で得た教訓を示し、事故原因と防止対策を明らかにした。総ページ数 pp3、保科正夫、渡辺良晴、木村千明、 <u>熊谷孝三</u> 、担当頁特定不能
81	放射線業務における医療事故防止に関する学術調査 第三報 CT 検査、MRI 検査、核医学検査、放射線治療のリスク事例	筆頭	2004 年 7 月	日本放射線技術学会雑誌、第 60 巻、第 6 号、pp927-938	調査に基づきリスク事例の CT 検査、MRI 検査、核医学検査、放射線治療について報告した。総ページ数 pp3、 <u>熊谷孝三</u> 、天内 廣、大田原美郎、西村健司、森田立美、担当頁特定不能
82	放射線業務における医療事故防止に関する学術調査 第四報 苦情質問について	筆頭	2004 年 8 月	日本放射線技術学会雑誌、第 60 巻、第 8 号、pp1072-1077	調査に基づきリスク事例の苦情質問について報告した。総ページ数 pp6、 <u>熊谷孝三</u> 、天内廣、大田原美郎、西村健司、森田立美、担当頁特定不能
83	誤照射事故防止のための新しい電子線測定プロトコルの提案と認定技師制度の充実	筆頭	2004 年 9 月	臨床放射線、Vol. 49、No. 9、pp1111-1119	誤照射事故防止のための新しい電子線測定プロトコルを提案するとともに認定技師制度の充実を行い、医療安全を確保することの重要性を示した。総ページ数 pp 9、 <u>熊谷孝三</u> 、島村正道、的場優、担当頁特定不能
84	診療放射線技師からみ	筆頭	2004 年 9 月	映像情報 Medical、	放射線治療における安全医療

	た放射線治療・リスク管理			Vol. 36, No. 12, pp1362-1371	対策の点から放射線治療管理およびリスク管理について検討し、具体的な防止法を明らかにした。総ページ数 pp10、 <u>熊谷孝三</u>
85	電子線の吸収線量評価の高度化に関する研究	筆頭	2004 年 10 月	原子核研究 Vo. 49、ppNo. 1, 65-75	空洞理論による電子線の吸収線量測定法を発展させて、臨床現場において容易に測定が可能な吸収線量決定法の確率をめざして、理論的・点実験的検討を行い、吸収線量を評価する方法を新しく示した。総ページ数 pp10、 <u>熊谷孝三</u>
86	日本放射線腫瘍学会の認定放射線治療技師制度	筆頭	2005 年 4 月	日本放射線技術学会九州部会誌 V014, No. 2, 60-63	認定放射線治療技師制度の構築について示し、医療の質と医療安全確保につながることを明らかにした。総ページ数 pp8、 <u>熊谷孝三</u>
87	診療放射線技師の経営戦略 (5) 診療放射線技師の意識改革	筆頭	2005 年 6 月	医療、第 59 巻、第 6 号、pp319-322	医療資源の効率的な活用、診療機能の充実と資質の向上をおこないつつ、病院運営に必要な経営戦略について検討し、その方法を示すとともに意識改革の重要性を指摘した。総ページ数 pp 4、 <u>熊谷孝三</u>
88	放射線治療事故を今後にどうかすかー第17回学術大会シンポジウム5のまとめ	共同	2005 年 9 月	日本放射線腫瘍学会雑誌、Vol. 17. No. 3, pp133-139	三次元治療から標的臓器の体内移動を考慮した四次元放射線治療へと進化する中で、放射線治療事故防止を言及し、品質管理の重要性を示唆した。総ページ数 pp7、池田恢、早瀬尚文、遠藤真広、広川 裕、白土博樹、保科正夫、渡辺良晴、 <u>熊谷孝三</u> 、泉孝吉、担当頁特定不能
89	医療用標準線量国際比較-吸収地区センターとカナダ (N R C C) の相互比較-	共同	2005 年 9 月	日本放射線腫瘍学会雑誌、No. 17. No. 3, pp155-159	外部放射線治療の新しい吸収線量測定プロトコルによる水吸収線量の決定において基本となる電離箱線量計の医療用標準線量の国際比較を実施し、使用の電離箱線量計の精度は非常に良いことを証明した。総ページ数 pp5、荒木不次男、 <u>熊谷孝三</u> 、担当頁特定不能
90	標準測定法 01 によるファーマ型電離箱の校正点の吸収線量の評価	共同	2005 年 11 月	医学物理、Vol. 25, No3. pp104-113	壁材の異なるファーマ型電離箱について JAMP-01 にしたがって高エネルギー光子および電子線における校正点吸収線量を評価した。総ページ数 pp10、荒木不次男、 <u>熊谷孝三</u> 、吉浦隆雄、大浦弘樹、橘昌幸、守部伸幸、田島秀隆、吉田毅、木戸哲男、担当頁特定不能
91	標準測定 01 による平行平板形型電離箱の校正点吸収線量の評価	共同	2005 年 11 月	医学物理、Vol. 25, No3. pp114-123	市販の 7 種類 12 個の平行平板形電離箱について JAMP-01 にしたがって高エネルギー光子お

					よび電子線における校正点吸収線量を評価した。総ページ数 pp10、荒木不次男、熊谷孝三、吉浦隆雄、大浦弘樹、橘昌幸、守部伸幸、田島秀隆、吉田毅、木戸哲男、担当頁特定不能
92	いま必要なリスクマネジメントとは、放射線治療機器の安全への取り組み	筆頭	2006 年 1 月	INNERVISION、第 21 巻、第 1 号、pp16-20	医療安全確保のために放射線治療機器の安全への取り組みについて検討し、医療機器の品質管理の重要性を示唆した。総ページ数 pp5、熊谷孝三
93	医療安全対策の取り組み（平成 15～17 年度）	共同	2006 年 3 月	日本放射線技術学会雑誌、第 62 巻第 3 号、pp382-389	平成 15～17 年度にわたる医療安全対策の取り組みについて報告した。総ページ数 pp8、天内廣、熊谷孝三、泉孝吉、富吉司、西村健司、東村亮治、平出博一、広川裕、村山茂康、諸済邦彦、担当頁特定不能
94	高エネルギー光子及び電子線における吸収線量の国際比較に関する研究	筆頭	2006 年 4 月	日本放射線技術学会雑誌、第 62 巻、第 4 号、pp503-507	国際的に線量トレーサビリティをもったカナダの NRCC と医療用標準九州地区センターとのコバルト校正定数の比較を行い、吸収線量の違いは 0.5%であることを示唆した。総ページ数 pp5、熊谷孝三、荒木不次男、保科正夫、鬼塚昌彦、宗清修三、吉浦隆雄、大浦弘樹、橘昌幸、担当頁特定不能
95	新旧 JARP 標準測定法に従った種々の円筒形及び平行平板形電離箱の校正点吸収線量の評価に関する研究班報告	共同	2006 年 5 月	日本放射線技術学会雑誌、第 62 巻、第 5 号、pp698-710	壁材の異なるファーマ型電離箱について光子および電子の校正点吸収線量を評価するとともに校正係数の妥当性を検討し、その差は±0.56%以下であることを示した。総ページ数 pp3、荒木不次男、熊谷孝三、吉浦隆雄、大浦弘樹、橘昌幸、守部伸幸、田島秀隆、吉田毅、下之坊俊明、担当頁特定不能
96	放射線業務における安全管理の実態調査（平成 17 年度）	共同	2007 年 1 月	日本放射線技術学会雑誌、第 63 巻、第 1 号、pp62-68	放射線業務における医療事故防止に関する研究を行い、放射線業務で発生しているリスク事例、苦情などのアンケート調査を行い、安全管理体制と事故防止活動の実態を示した。天内廣、西村健司、泉孝吉、熊谷孝三、鈴木久美子、塚本篤子、広川裕、宮沢康志、村山茂康、総ページ数 pp7、担当頁特定不能
97	厚生労働省科学研究費補助金研究報告書（医療安全・医療技術評価総合研究事業）医療機関における放射線安全確保に関する研究（課題番号：H16-医療・一	共同	2007 年 3 月	厚生労働省科学研究費補助金研究報告書（医療安全・医療技術評価総合研究事業	医療における放射線安全の確保は、国際的に大きな問題となっていることを鑑み、抱括的な医療における放射線の安全確保に関する指針を策定した。伊東久夫、池淵秀治、成田浩人、戸川貴史、中川恵一、成田雄一

	般-009) 平成 16 年度～18 年度 総合研究報告書				郎、小須田茂、磯辺公一、佐藤弘史、金谷信一、 <u>熊谷孝三</u> 、並木宣雄、藤村洋子、堀越亜希子、岩永哲雄、高橋美保子、総ページ数 pp223、放射線診断における医療被曝の安全確保に関するマニュアル、pp121-170、担当頁特定不能
98	科学技術分野の課題に関する第一線研究者の意識定点調査	共同	2007 年 10 月	科学技術政策研究所	研究者意識等の実態把握を目的として、第 3 期科学技術基本計画に対する意識、優れた研究成果創出のための研究環境及び研究成果をテーマに調査、実態を評価した。 <u>熊谷孝三</u> 他、総ページ数 pp207、担当頁特定不能
99	医療安全対策の取り組み（平成 18 年度）	共同	2007 年 3 月	日本放射線技術学会雑誌、第 63 巻、第 3 号、pp285-289	医療の安全確保は、患者への安全の担保をどのようにしているのか、どのようなことが患者の安全に必要なかを検討し、警鐘的事例を示した。天内廣、 <u>熊谷孝三</u> 、泉孝吉、富吉司、西村健司、東村亮治、平出博一、村山茂康、諸澄邦彦、総ページ数 pp5、担当頁特定不能
100	放射線治療における人材不足とその育成	筆頭	2008 年 3 月	INNERVISION、第 24 巻第 3 号、pp9-12	がん診療のエキスパートとして能力を発揮する放射線治療放射線専門技師の育成について示した。総ページ数 pp4、 <u>熊谷孝三</u> 、
101	医療安全対策の取り組み（平成 19 年度）	共同	2008 年 3 月	日本放射線技術学会雑誌、第 64 巻、第 3 号、pp385-387	医療の安全確保は、患者への安全の担保をどのようにしているのか、どのようなことが患者の安全に必要なかを検討し、警鐘的事例を示した。天内廣、 <u>熊谷孝三</u> 、泉孝吉、富吉司、西村健司、東村亮治、平出博一、村山茂康、諸澄邦彦、総ページ数 pp3、担当頁特定不能
102	科学技術分野の課題に関する第一線研究者の意識定点調査	共同	2008 年 10 月	科学技術政策研究所	研究者意識等の実態把握を目的として、第 3 期科学技術基本計画に対する意識、優れた研究成果創出のための研究環境及び研究成果をテーマに調査、実態を評価した。 <u>熊谷孝三</u> 他、総ページ数 pp207、担当頁特定不能
103	放射線治療技術制度管理の訪問調査と QA 指導	共同	2008 年 11 月	日本放射線技術学会雑誌、第 64 巻、第 11 号、pp1452-1467	外部放射線治療装置の精度管理実務について訪問調査を行い、精度管理の現況を明らかにした。木村千明、青山裕一、内山幸男、 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp16、担当頁特定不能
104	厚生労働省科学研究費補助金研究報告書（地	共同	2009 年 3 月	厚生労働省科学研究費補助金研究報告書（地域医	放射線検査における被曝調査について検討した。細野眞、成

	域医療基盤開発推進研究事業) 医療放射線の安全確保に関する研究 (H19-医療一般 003)			療基盤開発推進研究事業) 医療放射線の安全確保に関する研究 (H19-医療一般 003)	田浩人、熊谷孝三、中村泰彦他、総ページ数 pp224、診断参考レベルと放射線機器の保守点検に関する検討、pp1-20、担当頁特定不能
105	RALS の治療技術と臨床	共同	2009 年 9 月	日本放射線技術学会九州部会誌、Vo. 8、No. 2、pp23-30 2009	リモートアフローディングシステムの照射技術、品質管理、および臨床について言及した。橘昌幸、熊谷孝三、泉 隆 他、総ページ数 pp8、担当頁特定不能
106	外部照射装置の日常点検のあり方	共同	2009 年 9 月	日本放射線技術学会九州部会誌、Vo. 8、No. 2、pp31-35 2009	外部放射線治療装置の日常点検のあり方について検討した。大浦弘樹、熊谷孝三、総ページ数 pp5、担当頁特定不能
107	科学技術分野の課題に関する第一線研究者の意識定点調査	共同	2009 年 10 月	科学技術政策研究所	研究者意識等の実態把握を目的として、第 3 期科学技術基本計画に対する意識、優れた研究成果創出のための研究環境及び研究成果をテーマに調査、実態を評価した。熊谷孝三 他、総ページ数 pp207、担当頁特定不能
108	がん放射線治療の安全は診療放射線技師の手の中に	筆頭	2009 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、Vol. 22 No. 1 November pp85-93、2009	診療放射線技師はがんの放射線治療に貢献している。診療放射線技師のその役割りと責任、高度専門教育、コンプライアンスなどについて明らかにした。熊谷孝三、総ページ数 pp9
109	An ideal method of QA/QC in the medical electron accelerator	筆頭	2009 年 11 月	Journal of Association for Radioth of Association for Radiotherapy, Vol. 22 No. 1 November、pp19-31、2009	We showed an ideal method of QA of medical electron accelerator. Kozo Kumagai and Keita Taniguchi, Total pages13
110	専門技師の認定制度ガイドー安心・安全・高度なチーム医療のためにー 放射線治療専門技師	筆頭	2009 年 12 月	インナービジョン、1 月号 第 25 巻 第 1 号 (通算 286 号) pp35	放射線治療に専門として携わる診療放射線技師の認定制度について示した。熊谷孝三、総ページ数 pp1
111	厚生労働省科学研究費補助金研究報告書 (地域医療基盤開発推進研究事業) 医療放射線の安全確保に関する研究 (H19-医療一般 003)	共同	2010 年 3 月	厚生労働省科学研究費補助金研究報告書 (地域医療基盤開発推進研究事業) 医療放射線の安全確保に関する研究 (H19-医療一般 003) 総括	粒子線関連機器の保守点検のあり方に関する検討を行った。細野眞、成田浩人、熊谷孝三、中村泰彦 他、総ページ数 352、粒子線関連機器の保守点検のあり方に関する検討、熊谷孝三、総ページ数 pp36、担当頁特定不能
112	科学技術分野の課題に関する第一線研究者の意識定点調査	共同	2010 年 10 月	科学技術政策研究所	研究者意識等の実態把握を目的として、第 3 期科学技術基本計画に対する意識、優れた研究成果創出のための研究環境及び研究成果をテーマに調査、実

					態を評価した。熊谷孝三 他、総ページ数 pp207、担当頁特定不能
113	切らずに治す放射線治療-放射線治療機器と放射線の集中性-	筆頭	2010 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、Vol.23 No.1 November pp17-21、2010	がんの放射線治療、放射線治療機器、放射線の集中法、放射線治療の適応と限界などについて示した。熊谷孝三、吉浦隆雄、大浦弘樹、橘昌幸、福山幸秀、総ページ数 pp5、担当頁特定不能
114	切らずに治す放射線治療-肺がんの放射線治療-	共同	2010 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、Vol.23 No.1 November pp23-28、2010	肺がんの病態と統計、肺の解剖、肺がんの放射線治療、患者固定などについて示した。大浦弘樹、熊谷孝三、吉浦隆雄、橘昌幸、福山幸秀、総ページ数 pp6、担当頁特定不能
115	乳がんの放射線治療	共同	2010 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、Vol.23 No.1 November pp29-31、2010	乳がんの疫学、早期乳がんの治療法などについて示した。橘昌幸、熊谷孝三、吉浦隆雄、福山幸秀、大浦弘樹、総ページ数 pp3、担当頁特定不能
116	前立腺がんの放射線治療-強度変調照射法(IMRT)を中心に-	共同	2010 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、Vol.23 No.1 November pp33-38、2010	前立腺がんの解剖、原因、さまざまな治療、放射線治療、IMRT などについて示した。橘昌幸、熊谷孝三、吉浦隆雄、福山幸秀、大浦弘樹、総ページ数 pp6、担当頁特定不能
117	切らずに治す放射線治療-子宮頸がんの放射線治療-	共同	2010 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、Vol.23 No.1 November pp39-45、2010	子宮頸がんの疫学統計、原因、検査と診断、治療法、放射線治療の実際、有害事象などについて示した。吉浦隆雄、熊谷孝三、橘昌幸、福山幸秀、大浦弘樹、総ページ数 pp7、担当頁特定不能
118	QA/QC for the medical electron accelator in the radiotherapy.	筆頭	2010 年 11 月	Journal of Association for Radiotherapy, Vol.22 No.1 November, pp55-60, 2010	We showed QA/QC for the medical electron accelator in the radiotherapy. Kozo Kumagai, Keita taniguchi, kojima Takahashi, mitoshi Akiyama, Total pages pp6
119	EPID の品質保証・品質管理の実際	共同	2010 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、Vol.23 No.1 November pp61-66、2010	リニアックに用いられる EPID の品質保証および品質管理の実際について明らかにした。大浦弘樹、熊谷孝三、笠紀美子。総ページ数 pp6、担当頁特定不能
120	医用リニアックの IGRT の品質保証・品質管理の実際	共同	2011 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、Vol.24 No.1 November pp15-20、2011	医用リニアックの IGRT について、診療報酬上の要件、施設基準、QA/QC の必要性、技術的な QA/QC、精度などについて明らかにした大浦弘樹、熊谷孝三、古田真由美、市来守、総ページ数 pp6、担当頁特定不能。

121	日本におけるがん放射線治療の実態の解明	筆頭	2011年11月	放射線治療研究会雑誌、Vol.24 No.1 November pp35-68、2011	日本の放射線治療施設715病院に対して調査し、放射治療の実態と放射線治療装置の品質保証・品質管理のあり方を解明した。 <u>熊谷孝三</u> 、大浦弘樹、橘昌幸、上野泰彦、吉浦隆雄、高橋浩二郎、秋山實利、総ページ数 pp34、担当頁特定不能。
122	第1回放射線治療における品質管理の米国研修	筆頭	2011年11月	放射線治療研究会雑誌、Vol.24 No.1 November pp89-97、2011	米国における放射線治療の品質管理の実態を視察し、米国の実情を明らかにした。視察先はモアーズがんセンター。パターンソン放射線腫瘍センター、バリアン工場である。 <u>熊谷孝三</u> 、高橋司伸、橘昌幸、大浦弘樹、富永正英、笈田将皇、総ページ数 pp9、担当頁特定不能。
123	福岡県内における外部放射線治療装置の出力線量の第三者評価に関する検討	共同	2012年3月	日本放射線技師会雑誌、Vol.5、No.713、pp87-92、2012、3、	福岡県内の延べ11放射線治療施設について、外部放射線治療装置の出力線量を電離箱線量計で測定評価し、訪問測定の有用性活動の問題を明らかにした。橘昌幸、福永淳一、吉浦隆雄、大浦弘樹、平野奈緒美、廣瀬貴章、松本佳継、 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp6、担当頁特定不能。
124	医療用リニアックの標準的な日常点検の実際	共同	2012年11月	放射線治療研究会雑誌、Vol.25 No.1 November pp3-11、2012	リニアックの品質保証・品質管理は、安全確保にとって非常に重要である。特に、毎日行う精度点検は事故防止の根本であり、その標準的な日常点検の実施について明らかにした。大浦弘樹、 <u>熊谷孝三</u> 、橘昌幸、古田真由美、市来護、財前誠、総ページ数 pp9、担当頁特定不能。
125	RALS の治療手順と実際	共同	2012年11月	放射線治療研究会雑誌、Vol.25 No.1 November pp31-37、2012	RALS は悪性腫瘍を治療するための腔内照射装置である。本報では、RALS の点検項目、線源強度測定、事故時の対応、標準的な治療法について明らかにした。橘昌幸、 <u>熊谷孝三</u> 、泉隆、吉浦隆雄、広木昭則、福山幸秀、大浦弘樹、総ページ数 pp7、担当頁特定不能。
126	訪問施設による医用リニアックのX線出力測定	共同	2012年11月	放射線治療研究会雑誌、Vol.25 No.1 November pp39-44、2012	医用リニアックの出力線量を電離箱線量計で測定評価し、訪問測定の有用性活動の問題を明らかにした。福永淳一、橘昌幸、吉浦隆雄、大浦弘樹、平野奈緒美、廣瀬貴章、松本佳継、 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp6、担当頁特定不能。
127	第2回放射線治療における品質管理の米国研	筆頭	2012年11月	放射線治療研究会雑誌、Vol.25 No.1 November	米国における放射線治療の品質管理の実態を視察し、米国の

	修			pp89-97、2012	実情を明らかにした。調査先は、スタンホード大学病院、カルファルニ大学病院、バリアン工場である。 <u>熊谷孝三</u> 、富永正英、笈田将皇、総ページ数 pp9、担当頁特定不能。
128	リニアックにおける電子ポータル画像照合装置の品質保証・品質管理	筆頭	2013 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、Vol.26 No.1 November pp10-22、2013	リニアックにおける電子ポータル画像照合装置の品質保証・品質管理について明らかにした。 <u>熊谷孝三</u> 、橘昌幸、大浦弘樹、原毅弘、高橋わたる、堀内健吾、総ページ数 pp13、担当頁特定不能。
129	放射線治療計画の基本について	共同	2013 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、Vol.26 No.1 November pp23-28、2013	外部放射線治療で不可欠な治療計画装置の基本について問題点を提示し、明らかにした。 <u>橘昌幸</u> 、 <u>熊谷孝三</u> 、泉隆、吉浦隆雄、廣木昭則、福山幸秀、大浦弘樹、総ページ数 pp6、担当頁特定不能。
130	外部放射線治療装置の品質保証・品質管理における QC ツールの有用性	共同	2013 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、Vol.26 No.1 November pp36-44、2013	外部放射線治療装置の品質保証・品質管理における QC ツールの有用性について明らかにした。大浦弘樹、 <u>熊谷孝三</u> 、橘昌幸、古田真由美、総ページ数 pp9、担当頁特定不能。
131	がん放射線療法の副作用と治療費 -肺がん-	筆頭	2013 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、Vol.26 No.1 November pp53-55、2013	がん放射線療法の副作用と治療費 -肺がん-について明らかにした。 <u>熊谷孝三</u> 、吉浦隆雄、橘昌幸、大浦弘樹、総ページ数 pp3、担当頁特定不能。
132	がん放射線療法の副作用と治療費 -乳がん-	共同	2013 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、Vol.26 No.1 November pp56-59、2013	がん放射線療法の副作用と治療費 -乳がん-について明らかにした。大浦弘樹、 <u>熊谷孝三</u> 、橘昌幸、吉浦隆雄、総ページ数 6pp、担当頁特定不能。
133	がん放射線療法の副作用と治療費 -子宮頸がん-	共同	2013 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、Vol.26 No.1 November pp66-72、2013	がん放射線療法の副作用と治療費 -子宮頸がん-について明らかにした。 <u>熊谷孝三</u> 、吉浦隆雄、橘昌幸、大浦弘樹、総ページ数 pp6、担当頁特定不能。
134	放射線治療の進歩と将来展望-診療放射線技師がめざしていくものは何か-	筆頭	2013 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、Vol.26 No.1 November pp112-116、2013	放射線治療の進歩と将来展望-診療放射線技師がめざしていくものは何か-について言及した。 <u>熊谷孝三</u> 、橘昌幸、総ページ数 pp5、担当頁特定不能。
135	がん放射線療法を担う診療放射線技師	筆頭	2014 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、Vol.27 No.1 November pp3-8、2014	がん放射線療法を担う診療放射線技師について言及した。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp6
136	放射線治療計画装置のコミッショニング	共同	2014 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、Vol.27 No.1 November pp28-33、2014	放射線治療計画装置のコミッショニングについて言及した。橘昌幸、 <u>熊谷孝三</u> 、泉隆、他、

137	外部放射線治療装置の臨床的品質管理について	共同	2014 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、Vol.27 No.1 November pp34-38、2014	総ページ数 pp6, 担当頁特定不能。 外部放射線治療装置の臨床的品質管理について言及した。大浦弘樹、 <u>熊谷孝三</u> 、橘昌幸、他、総ページ数 pp5, 担当頁特定不能。
138	電子ポータル画像照合装置を用いたリニアックの品質管理	筆頭	2014 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、Vol.27 No.1 November pp39-72、2014	電子ポータル画像照合装置を用いたリニアックの品質管理について言及した。 <u>熊谷孝三</u> 、橘昌幸、大浦弘樹、他、総ページ数 pp34, 担当頁特定不能。
139	リスクマネジメントと品質管理	筆頭	2015 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、Vol.28 No.1 November pp89-96、2015	リスクマネジメントと品質管理について言及した。 <u>熊谷孝三</u> 、橘昌幸、総ページ数 pp 8, 担当頁特定不能。
140	外部照射-放射線計測-	共同	2015 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、Vol.28 No.1 November pp70-81、2015	外部照射-放射線計測-について言及した。吉浦隆雄、 <u>熊谷孝三</u> 、橘昌幸、他、総ページ数 pp 12, 担当頁特定不能。
141	外部照射-品質管理、品質保証-	共同	2015 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、Vol.28 No.1 November pp63-69、2015	外部照射-品質管理、品質保証-について言及した。大浦弘樹、 <u>熊谷孝三</u> 、橘昌幸、他、総ページ数 pp 7, 担当頁特定不能。
142	米国における放射線治療の品質保証・品質管理の現状	共同	2015 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、Vol.28 No.1 November pp35-43、2015	米国における放射線治療の品質保証・品質管理の現状について言及した。大浦弘樹、 <u>熊谷孝三</u> 、橘昌幸、他、総ページ数 pp 7, 担当頁特定不能。
143	診療放射線技師に求められる記録の書き方	共同	2015 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、Vol.28 No.1 November pp29-34、2015	診療放射線技師に求められる記録の書き方について言及した。橘昌幸、 <u>熊谷孝三</u> 、吉浦隆雄、総ページ数 pp 6, 担当頁特定不能。
144	わが国の病院に医学物理士はいるか	筆頭	2016 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、Vol.29 No.1 November pp92-95、2016	「わが国の病院に医学物理士はいるか」について言及した。橘昌幸、 <u>熊谷孝三</u> 、吉浦隆雄、総ページ数 pp 6, 担当頁特定不能。
(その他)					
1	放射線治療研究会雑誌	編集	1996 年 11 月 1997 年 11 月 1998 年 11 月 1999 年 11 月 2000 年 11 月 2001 年 11 月 2002 年 11 月 1996 年 11 月 1997 年 11 月 1998 年 11 月 1999 年 11 月	放射線治療研究会	代表世話人として、放射線治療に携わる診療放射線技師のための教育雑誌の編修と作成に携わってきた。

			2000 年 11 月 2001 年 11 月 2002 年 11 月 2003 年 11 月 2004 年 11 月 2005 年 11 月 2006 年 11 月 2007 年 11 月 2008 年 11 月 2009 年 11 月 2010 年 11 月 2011 年 11 月 2012 年 11 月 2013 年 11 月 2014 年 11 月 2015 年 11 月 2016 年 11 月 (毎年作成)		
2	放射線治療セミナー (基礎コース) テキスト 上巻	共著	1996 年 7 月 1997 年 7 月 1998 年 7 月 1999 年 7 月 2000 年 7 月 2001 年 7 月 2002 年 7 月 2003 年 7 月 2004 年 7 月 2005 年 7 月 2006 年 7 月 2007 年 7 月 2008 年 7 月 2009 年 7 月 2010 年 7 月 2011 年 7 月 2012 年 7 月 2013 年 7 月 2014 年 7 月 2015 年 7 月 (毎年作成)	放射線治療研究会	放射線治療に携わる診療放射線技師のための教育テキスト、総ページ数 pp205、 <u>熊谷孝三</u> 、沼口健治、上総中道、泉隆、奥村正彦、 <u>広川裕</u> 、 <u>熊谷孝三</u> 、内山幸男、 <u>熊谷孝三</u> 、南部秀和、佐藤清香、放射線治療の極意 pp5-32、線量評価の実態調査 pp173-191、放射線治療における誤照射防止 pp203-209
3	放射線治療セミナー (基礎コース) テキスト 中巻 1	共著	1996 年 7 月 1997 年 7 月 1998 年 7 月 1999 年 7 月 2000 年 7 月 2001 年 7 月 2002 年 7 月 2003 年 7 月 2004 年 7 月 2005 年 7 月 2006 年 7 月 2007 年 7 月 2008 年 7 月 2009 年 7 月 2010 年 7 月 2011 年 7 月 2012 年 7 月 2013 年 7 月 2014 年 7 月	放射線治療研究会	放射線治療に携わる診療放射線技師のための教育テキスト、総ページ数 pp181、泉隆、吉浦隆雄、小山修司、 <u>熊谷孝三</u> 、 <u>広木昭則</u> 、放射線治療における高エネルギー電子線の吸収線量測定技術マニュアル pp 5 0 - 1 8 0

			2015 年 7 月 (毎年作成)		
4	放射線治療セミナー (基礎コース) テキスト 中巻 2	共著	1996 年 7 月 1997 年 7 月 1998 年 7 月 1999 年 7 月 2000 年 7 月 2001 年 7 月 2002 年 7 月 2003 年 7 月 2004 年 7 月 2005 年 7 月 2006 年 7 月 2007 年 7 月 2008 年 7 月 2009 年 7 月 2010 年 7 月 2011 年 7 月 2012 年 7 月 2013 年 7 月 2014 年 11 月 2015 年 7 月 (毎年作成)	放射線治療研究会	放射線治療に携わる診療放射線技師のための教育テキスト、総ページ数 pp107、荒木不次男、西台武弘、吉浦隆雄、広木昭則、小口宏、熊谷孝三、高エネルギー電子線における吸収線量測定法の高度評価 pp99-107
5	放射線治療セミナー (基礎コース) テキスト 下巻	共著	1996 年 7 月 1997 年 7 月 1998 年 7 月 1999 年 7 月 2000 年 7 月 2001 年 7 月 2002 年 7 月 2003 年 7 月 2004 年 7 月 2005 年 7 月 2006 年 7 月 2007 年 7 月 2008 年 7 月 2009 年 7 月 2010 年 7 月 2011 年 7 月 2012 年 7 月 2013 年 7 月 2014 年 7 月 2015 年 7 月 (毎年作成)	放射線治療研究会	放射線治療に携わる診療放射線技師のための教育テキスト、総ページ数 pp206、升本博史、神宮健一、熊谷孝三、吉浦隆雄、徳丸直郎、喉頭癌の放射線治療 pp44-57、婦人科疾患の放射線治療 pp151-156
6	放射線障害予防法取扱 主任者登録定期講習会 テキスト	共著	2007 年 10 月	日本放射線技師会	放射線障害予防法取扱主任者登録定期講習会用のテキスト、総ページ数 pp178、渡辺浩、中村豊、成田浩人、熊谷孝三、保科雅夫、事故の事例に関する課目 pp83-169
7	翻訳：ICRU REPORT 23: Measurement of Absorbed Dose in a Phantom Irradiated by a Single Beam of X or Gamma Rays(1973) 「X線またはγ線の一	共著	1979 年 4 月	日本放射線技術学会放射 線治療技術委員会	X 線 γ 線のファントム中の吸収線量測定についての勧告の翻訳、総ページ数 pp32、高田卓男、進藤順二、熊谷孝三、吉浦隆雄、等頁特定不能

	門照射によるファントム中の吸収線量測定」				
8	翻訳：ICRU REPORT 24: Determination of Absorbed Dose in a Patient Irradiated by Beams of X or Gamma Rays in Radiotherapy Procedures(1976) 「放射線治療で患者にX線またはγ線を照射したときの吸収線量の算定」	共著	1982 年 4 月	日本放射線技術学会放射線治療技術委員会	放射線治療におけるX線の吸収線量測定についての勧告の翻訳、総ページ数 pp116 高田卓男、進藤順二、 <u>熊谷孝三</u> 、吉浦隆雄、頁特定不能
9	翻訳：ICRU REPORT 29 : Dose Specification for Reporting External Beam Therapy with Photons and Electrons(1978) 「光子および電子線による体外照射治療報告のための線量明記」	共著	1983 年 4 月	日本放射線技術学会放射線治療技術委員会	光子および電子線による体外照射治療報告のための線量の明記についての勧告の翻訳、総ページ数 pp138, 高田卓男、進藤順二、 <u>熊谷孝三</u> 、吉浦隆雄、等頁特定不能
10	翻訳：ICRU REPORT33 : Radiation Quantities and Units(1980) 「放射線（能）の量と単位」	共著	1984 年 4 月	日本放射線技術学会放射線治療技術委員会	放射線（能）の量と単位についての勧告の翻訳、総ページ数 pp35, 高田卓男、進藤順二、 <u>熊谷孝三</u> 、吉浦隆雄、頁特定不能
11	翻訳：ICRU REPORT34 : The Dosimetry of Pulsed Radiation(1982) [パルス放射線の測定]	共著	1985 年 4 月	日本放射線技術学会放射線治療技術委員会	パルス放射線の測定についての勧告の翻訳、高田卓男、進藤順二、 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp204, 吉浦隆雄、頁特定不能
12	翻訳：ICRU REPORT38 : Dose and Volume Specification for Reporting Intracavitary Therapy in Gynecology(1985) 「婦人科における腔内照射治療報告のための線量と容積の明記」	共著	1985 年 11 月	放射線治療研究会	婦人科における口腔内照射治療報告のための線量容積の明記についての勧告の翻訳総ページ数 pp16、 <u>熊谷孝三</u> 、上原智、頁特定不能
13	翻訳：ICRU REPORT50 : Prescribing, Recording, and Reporting Photon Beam Therapy(1993) 「光子線束治療の規定、記録、そして報告」	単著	1997 年 1 1 月	放射線治療研究会	光子線治療の規定、記録、そして報告についての勧告の翻訳、 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp71
14	保健衛生の向上を願って 第 57 回保健文化賞受賞者業績	共著	2007 年 1 月	第一生命保険相互会社	保健文化賞を受賞して、総ページ数 pp121、 <u>熊谷孝三</u> 、pp110-116
15	スーパテクノロジスト	共著	2004 年 1 月	日本放射線技術学会 雑	スーパテクノロジストを語

	を語る			誌、第 60 巻、第 1 号、1-18	る、 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp18、 頁特定不能
16	専門技師制度とスーパー テクノロジストー未 来の診療放射線技師を 目指して	共著	2007 年 1 月	日本放射線技術学会雑 誌、第 63 巻、第 1 号、1-15	専門技師制度と未来の診療 放射線技師について言及した。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp15、頁 特定不能
17	高スキルの放射線技師 を確保する	単著	2007 年 10 月	新医療、pp130-134、 10 月号、2007	がん対策基本法に基づく放 射線治療への期待と高度専門 教育の必要性を示唆した。 <u>熊谷 孝三</u> 、総ページ数 pp5
18	放射線治療専門放射線 技師の育成	単著	2008 年 9 月	日本放射線技師会雑 誌、Vol. 55, No. 671, pp21- 24、2008	放射線治療専門放射線技師 の育成について言及した。 <u>熊谷 孝三</u> 、総ページ数 pp4
19	放射線治療専門放射線 技師の今後	単著	2008 年 12 月	JASTRO NEWSLETTER、200 年 No4. 通巻 90 号	放射線治療専門放射線技師 の今後の方向性を示唆した。 <u>熊 谷孝三</u> 、総ページ数 pp2
20	平成 20 年度診療報酬 改定についてー放射線 治療ー	単著	2008 年 12 月	日本放射線技師会雑 誌、Vol. 55, No. 674、 p39-40、2008	放射線治療の平成 20 年度 診療報酬改定について言及し た。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp2
21	がんの放射線治療を支 える診療放射線技師	単著	2009 年 12 月	広島県放射線治療技術研 究会会誌	診療放射線技師はがんの放 射線治療を支えてきた。診療放 射線技師のその役割と責任、高 度専門教育、コンプライアンス などについて明らかにした。 <u>熊 谷孝三</u> 、総ページ数 pp8
22	放射線治療の品質保 証・品質管理と診療放 射線技師	単著	2009 年 9 月 2010 年 3 月	第 2、3 回がん医療にけ る放射線治療の品詞管理 高度専門教育セミナーテ キスト	医用電子加速装置の品質保 証・品質管理と診療放射線技師 の役割について示した。 <u>熊谷孝 三</u> 、総ページ数 pp5
23	医用電子加速装置のル ーチン品質保証ー患者 の安全はあなたの手の 中にー	単著	2009 年 9 月 2010 年 3 月	第 2、3 回がん医療にけ る放射線治療の品詞管理 高度専門教育セミナーテ キスト	医用電子加速装置の照射精 度と医療安全の確保は、品質管 理を行う者の手中にあること を示した。 <u>熊谷孝三</u> 、総ペー ジ数 pp2
24	リニアックの緊急時対 応の保守点検	単著	2009 年 9 月 2010 年 3 月	第 2、3 回がん医療にけ る放射線治療の品詞管理 高度専門教育セミナーテ キスト	リニアックの緊急時の対応 について示した。 <u>熊谷孝三</u> 、総 ページ数 pp2
25	放射線治療の品質保 証・品質管理と診療放 射線技師（改訂 1）	単著	2010 年 9 月 2011 年 3 月	第 4、5 回がん医療にけ る放射線治療の品詞管理 高度専門教育セミナーテ キスト	医用電子加速装置の品質保 証・品質管理と診療放射線技師 の役割について示した。 <u>熊谷 孝三</u> 、総ページ数 pp5
26	医用電子加速装置のル ーチン品質保証ー患者 の安全はあなたの手の 中にー（改訂 1）	単著	2010 年 9 月 2011 年 3 月	第 4、5 回がん医療にけ る放射線治療の品詞管理 高度専門教育セミナーテ キスト	医用電子加速装置の照射精度 と医療安全の確保は、品質管理 を行う者の手中にあることを 示した。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp2
27	リニアックの緊急時対 応の保守点検（改訂 1）	単著	2010 年 9 月 2011 年 3 月	第 4、5 回がん医療にけ る放射線治療の品詞管理 高度専門教育セミナーテ キ	リニアックの緊急時の対応 について示した。 <u>熊谷孝三</u> 、総 ページ数 pp2

				スト	
28	放射線治療の品質保証・品質管理と診療放射線技師（改訂2）	単著	2011年3月	第6回がん医療にける放射線治療の品質管理高度専門教育セミナーテキスト	医用電子加速装置の品質保証・品質管理と診療放射線技師の役割について示した。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp5
29	医用電子加速装置のルーチン品質保証-患者の安全はあなたの手の中に（改訂2）	単著	2011年3月	第6回がん医療にける放射線治療の品質管理高度専門教育セミナーテキスト	医用電子加速装置の照射精度と医療安全の確保は、品質管理を行う者の手中にあることを示した。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp2
30	リニアックの緊急時対応の保守点検（改訂2）	単著	2011年3月	第6回がん医療にける放射線治療の品質管理高度専門教育セミナーテキスト	リニアックの緊急時の対応について示した。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp2
31	第10回放射線治療セミナー報告	単著	2005年11月	放射線治療研究会雑誌、Vol.18 No.1 pp88、November 2005	第10回放射線治療セミナーの活動報告を行った。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp1
32	第11回放射線治療セミナー報告	単著	2006年11月	放射線治療研究会雑誌、Vol.19 No.1 pp71、November 2006	第11回放射線治療セミナーの活動報告を行った。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp1
33	第12回放射線治療セミナー報告	単著	2007年11月	放射線治療研究会雑誌、Vol.20 No.1 pp99、November 2007	第12回放射線治療セミナーの活動報告を行った。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp1
34	第13回放射線治療セミナー報告	単著	2008年11月	放射線治療研究会雑誌、Vol.21 No.1 pp103、November 2008	第13回放射線治療セミナーの活動報告を行った。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp1
35	第14回放射線治療セミナー報告	単著	2009年11月	放射線治療研究会雑誌、Vol.22 No.1 pp103-105、November 2009	第14回放射線治療セミナーの活動報告を行った。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp3
36	第15回放射線治療セミナー報告	単著	2010年11月	放射線治療研究会雑誌、Vol.23 No.1 pp107-109、November 2010	第15回放射線治療セミナーの活動報告を行った。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp3
37	第16回放射線治療セミナー報告	単著	2011年11月	放射線治療研究会雑誌、Vol.24 No.1 pp107-109、November 2011	第16回放射線治療セミナーの活動報告を行った。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp3
38	第17回放射線治療セミナー報告	単著	2012年11月	放射線治療研究会雑誌、Vol.25 No.1 pp103-105、November 2012	第17回放射線治療セミナーの活動報告を行った。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp3
39	第18回放射線治療セミナー報告	単著	2013年11月	放射線治療研究会雑誌、Vol.26 No.1 pp117-119、November 2013	第18回放射線治療セミナーの活動報告を行った。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp3
40	第19回放射線治療セミナー報告	単著	2014年11月	放射線治療研究会雑誌、Vol.27 No.1 pp113-115、November 2014	第19回放射線治療セミナーの活動報告を行った。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp3
41	第20回放射線治療セミナー報告	単著	2015年11月	放射線治療研究会雑誌、Vol.28 No.1 pp131-132、November 2015	第20回放射線治療セミナーの活動報告を行った。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp3
42	第21回放射線治療セミナー報告	単著	2016年11月	放射線治療研究会雑誌、Vol.29 No.1 pp106-108、	第21回放射線治療セミナーの活動報告を行った。 <u>熊谷孝三</u> 、

				November 2016	総ページ数 pp 3
43	シリーズ がん対策基本法と診療放射線技師第1回 がん対策基本法施行にあたり診療放射線技師は何をすべきか	単著	2007年4月	日本放射線技師会雑誌 Vol. 54、no. 654、pp76-82、2007	がん対策基本法施行にあたり診療放射線技師が対応すべきことを示した。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp7
44	シリーズ がん対策基本法と診療放射線技師第2回 がん対策への寄与をめざす診療放射線技師は何をすべきか	単著	2007年5月	日本放射線技師会雑誌 Vol. 54、no. 655、pp130-133、2007	がん対策への寄与をめざす診療放射線技師について示した。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp4
45	シリーズ がん対策基本法と診療放射線技師第3回 国民の目に映る診療放射線技師とは	単著	2007年6月	日本放射線技師会雑誌 Vol. 54、no. 657、pp110-113、2007	国民の目に映る診療放射線技師の姿について示した。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp4
46	シリーズ がん対策基本法と診療放射線技師第4回 放射線治療の安全確保に大きく貢献してきた診療放射線技師	単著	2007年7月	日本放射線技師会雑誌 Vol. 54、no. 658、pp119-124、2007	放射線治療の安全確保に大きく貢献してきた診療放射線技師の姿を医療事故例を通じて示した。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp6
47	シリーズ がん対策基本法と診療放射線技師第5回 国のがん戦略にどのように対応していくべきか。	単著	2007年8月	日本放射線技師会雑誌 Vol. 54、no. 659、pp78-83、2007	診療放射線技師ががん対策基本法にもとづき、どのように対応すべきかを示した。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp6
48	シリーズ がん対策基本法と診療放射線技師第6回 がん撲滅のための放射線治療専門放射線技師の高度専門教育	単著	2007年9月	日本放射線技師会雑誌 Vol. 54、no. 660、pp62-65、2007	がん撲滅のための放射線治療専門放射線技師の高度専門教育について示した。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp4
49	シリーズ がん対策基本法と診療放射線技師第7回 放射線治療における診療報酬の適正評価-施設基準について-	単著	2007年11月	日本放射線技師会雑誌 Vol. 54、no. 661、pp72-75、2007	放射線治療における診療報酬の適正評価について示した。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp4
50	シリーズ がん対策基本法と診療放射線技師第8回 診療放射線技師の品格	単著	2007年12月	日本放射線技師会雑誌 Vol. 54、no. 662、pp88-91、2007	診療放射線技師の品格について示した。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp4
51	シリーズ がん対策基本法と診療放射線技師第9回 診療放射線技師の品格(2)	単著	2008年1月	日本放射線技師会雑誌 Vol. 55、no. 663、pp64-67、2008	診療放射線技師の品格について示した。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp4
52	シリーズ がん対策基本法と診療放射線技師第10回 診療放射線技師の品格(3)	単著	2008年2月	日本放射線技師会雑誌 Vol. 55、no. 664、pp56-58、2008	診療放射線技師の品格について示した。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ数 pp3
53	シリーズ がん対策基	単著	2008年3月	日本放射線技師会雑誌	診療放射線技師の品格につい

	本法と診療放射線技師 第 11 回 診療放射線 技師の品格 (4)			Vol. 55、no. 665、pp60-63、 2008	て示した。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ 数 pp4												
54	シリーズ がん対策基 本法と診療放射線技師 第 12 回 診療放射線 技師の品格 (5)	単著	2008 年 4 月	日 本放射線技師会雑誌 Vol. 55、no. 666、pp46-49、 2008	診療放射線技師の品格につい て示した。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ 数 pp4												
55	シリーズ がん対策基 本法と診療放射線技師 第 13 回 診療放射線 技師の品格 (6)	単著	2008 年 5 月	日 本放射線技師会雑誌 Vol. 55、no. 667、pp54-57、 2008	診療放射線技師の品格につい て示した。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ 数 pp4												
56	シリーズ がん対策基 本法と診療放射線技師 最終回 診療放射線技 師の品格 (7)	単著	2008 年 5 月	日 本放射線技師会雑誌 Vol. 55 、 no. 667 、 pp106-108、2008	診療放射線技師の品格につい て示した。 <u>熊谷孝三</u> 、総ページ 数 pp3												
57	第 5 回がん医療におけ る放射線治療の品質管 理高度専門教育セミナ ーを開催して	単著	2011 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、 Vol. 24 No. 1 p99-102 、 November 2011	広島国際大学で行われてい る社会人セミナーの第 5 回が ん医療における放射線治療の 品質管理高度専門教育セミナ ーについて報告した。 <u>熊谷孝 三</u> 、総ページ数 pp 4.												
58	第 6 回がん医療におけ る放射線治療の品質管 理高度専門教育セミナ ーを開催して	単著	2012 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、 Vol. 25 No. 1 p99-102 、 November 2012	広島国際大学で行われてい る社会人セミナーの第 6 回が ん医療における放射線治療の 品質管理高度専門教育セミナ ーについて報告した。 <u>熊谷孝 三</u> 、総ページ数 pp 4.												
59	第 8 回がん医療におけ る放射線治療の品質管 理高度専門教育セミナ ーを開催して	単著	2013 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、 Vol. 25 No. 1 p124-128、 November 2013	広島国際大学で行われてい る社会人セミナーの第 8 回が ん医療における放射線治療の 品質管理高度専門教育セミナ ーについて報告した。 <u>熊谷孝 三</u> 、総ページ数 pp 4.												
58	第 10 回がん医療にお ける放射線治療の品質 管理高度専門教育セミ ナーを開催して	単著	2014 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、 Vol. 27 No. 1 p109-112、 November 2014	広島国際大学で行われてい る社会人セミナーの第 10 回が ん医療における放射線治療の 品質管理高度専門教育セミナ ーについて報告した。 <u>熊谷孝 三</u> 、総ページ数 pp 4.												
60	第 12 回がん医療にお ける放射線治療の品質 管理高度専門教育セミ ナーを開催して	単著	2015 年 11 月	放射線治療研究会雑誌、 Vol. 28 No. 1 p125-128、 November 2015	広島国際大学で行われてい る社会人セミナーの第 10 回が ん医療における放射線治療の 品質管理高度専門教育セミナ ーについて報告した。 <u>熊谷孝 三</u> 、総ページ数 pp 4.												
<table><tr><td>上記記載以外に</td><td></td><td></td></tr><tr><td>著書</td><td>件</td><td></td></tr><tr><td>学術論文</td><td>件</td><td></td></tr><tr><td>その他</td><td>件</td><td></td></tr></table>						上記記載以外に			著書	件		学術論文	件		その他	件	
上記記載以外に																	
著書	件																
学術論文	件																
その他	件																

IV その他

(班研究等)	(期間)	(班長：二重下線)
(1) I C R U抄訳検討班	1982 年 4 月～1988 年 3 月	日本放射線技術学会専門委員会 <u>高田卓雄</u> 、 <u>進藤順二</u> 、 <u>熊谷孝三</u> 、吉浦隆雄
(2) 放射線治療における照射技術の基準化検討班	1992 年 4 月～1994 年 3 月	日本放射線技術学会専門委員会 <u>熊谷孝三</u> 、吉浦隆雄、泉 隆、荒木不次男、高田卓雄、神宮賢一 平成 6 年度日本放射線技師会研究・調査活動助成研究 <u>熊谷孝三</u>
(3) 難治性白血病の骨髄移植を前提とした全身照射法の研究班	1994 年 4 月～1995 年 3 月	平成 7 年度国立療養所地区研究「管理研究」 <u>熊谷孝三</u> 、折田新逸、田畑信幸、酒本司、井芹卓見、西本博美、井手口光弘
(4) 医療現場におけるリスクマネージメントのあり方についての研究班	1995 年 4 月～1996 年 3 月	平成 8 年度日本放射線技師会研究・調査活動助成研究 <u>熊谷孝三</u> 、折田新逸、田畑信幸、酒本司、吉浦隆雄
(5) 放射線診療におけるリスクマネージメントの研究-リスク事例と医療事故防止対策-の研究班	1996 年 4 月～1997 年 3 月	平成 9 年度日本放射線技師会研究・調査活動助成研究 <u>熊谷孝三</u> 、廣木昭則、野田一也
(6) 放射線治療における高エネルギー電子線の線量計算プログラムソフトの開発の研究班（班長）	1997 年 4 月～1998 年 3 月	平成 10 年度政策医療振興財団研究助 <u>熊谷孝三</u> 、和田進、荒木不次男
(7) 放射線治療用高エネルギー電子線における不均質組織ファントム中の線量分布の検討班（班長）	1998 年 4 月～1999 年 3 月	日本放射線技術学会学術研究 <u>熊谷孝三</u> 、天内 廣、大田原美郎、西村健司、森田立美
(10) 放射線業務における医療事故防止に関する研究班	2001 年 4 月～2003 年 3 月	日本放射線技術学会学術研究 <u>荒木不次男</u> 、 <u>熊谷孝三</u> 、吉浦隆雄、大浦弘樹、橘昌幸、守部伸幸、田島秀隆、吉田毅、木戸哲男
(11) 新旧 JARP 標準測定法に従った種々の円筒形及び平行平板形電離箱の校正点九州線量の評価に関する研究班（班員）	2003 年 4 月～2005 年 3 月	日本放射線技術学会学術研究 <u>熊谷孝三</u> 、荒木不次男、保科正夫、鬼塚昌彦、宗清修三、吉浦隆雄、大浦弘樹、橘昌幸
(12) 高エネルギー光子線における		日本放射線技術学会学術研究 <u>木村千明</u> 、青山裕一、内山幸男、嘉戸洋介、金子勝太郎、 <u>熊谷孝三</u> 、宗清修三

吸収線量の国際評価に関する研究 班（班長）		<u>天内廣</u> 、 <u>泉孝吉</u> 、 <u>熊谷孝三</u> 、鈴木久美子、塚本篤子、西村健 司、 <u>広川裕</u> 、 <u>宮澤康志</u> 、 <u>村上朋史</u> 、 <u>村山茂康</u> 、 <u>梁川範幸</u>
(13) 放射線治療精度管理の訪問調 査と QA 指導班	2004 年 4 月～2005 年 3 月	厚生労働省科学研究費補助金研究 (H16-医療-009) <u>伊東久夫</u> 、 <u>池淵秀治</u> 、 <u>成田浩人</u> 、 <u>戸川貴史</u> 、 <u>中川敬一</u> 、(<u>熊谷 孝三</u> 、 <u>佐藤弘史</u> 、 <u>並木宣雄</u> 、 <u>藤村洋子</u> 、 <u>堀越亜希子</u> 、 <u>岩永哲 雄</u> 、 <u>高橋美保子</u>)
(14) 放射線業務における安全管理 の実態調査班	2005 年 4 月～2007 年 3 月	日本放射線技術学会学術研究 <u>保科正夫</u> 、 <u>荒木不次男</u> 、 <u>小口宏</u> 、 <u>奥村正彦</u> 、 <u>熊谷孝三</u> 、 <u>佐々 木浩二</u> 、 <u>館岡邦彦</u> 、 <u>羽生裕二</u>
(15) 医療機関における放射線安全 の確保に関する研究（研究協力者）	2005 年 4 月～2006 年 3 月	厚生労働省科学研究費補助金研究 <u>細野真</u> 、 <u>岡野友宏</u> 、 <u>成田浩人</u> 、 <u>山口一朗</u> 、 <u>赤羽正章</u> 、 <u>大場久 照</u> 、(<u>迫義知</u> 、 <u>米矢吉宏</u> 、 <u>中村安彦</u> 、 <u>熊谷孝三</u> 、 <u>野口裕司</u>)
(16) Wed-base による放射線治療技 師教育のための手法と素材の調査 研究	2005 年 4 月～ 2007 年 3 月	広島国際大学特別研究助成 <u>熊谷孝三</u> 広島国際大学特別研究助成 <u>熊谷孝三</u>
(17) 医療放射線の安全確保に関 する研究（研究協力者）	2006 年 4 月～ 2008 年月	広島国際大学特別研究助成 <u>熊谷孝三</u>
(18) 医用電子加速装置の品質保 証・品質管理の高度化に関する研 究	2007 年 4 月～ 2010 年 3 月	
(19) 医用電子加速装置の品質保 証・品質管理の高度化に関する研 究-線量管理綱目および幾何学的 精度管理綱目の手法の解明と確立 -	2009 年 4 月～ 2010 年 3 月	
(20) 医用電子加速装置のマルチ リーフコリメータの品質保証・品 質管理に関する研究	2010 年 4 月～ 2011 年 3 月	

	2011 年 4 月～ 2012 年 3 月	
--	---------------------------	--

(氏名 熊谷孝三)